

遊びがこどもたちの未来をつくる

～ 紡ぎだすこどもの世界 ～

四日市市就学前教育・保育カリキュラム実践版



四日市市幼児教育センター

令和8年3月

目次

1	はじめに	1
2	実践版に寄せて	2
3	めざしたいこと ① ② ③	4
4	実践版作成にあたって	12
5	0 歳児 ● 西浦保育園	14
6	1 歳児 ● 小規模保育所 まちなかフジ保育園	20
	● たいすいノースこども園	26
	● かすみ園	32
7	2 歳児 ● ことり保育園	38
	● ときわ保育園	44
8	3 歳児 ● 三重こども園	50
	● あおい幼稚園	56
9	4 歳児 ● 泊山幼稚園	62
10	5 歳児 ● 海の星カトリック幼稚園	68
11	異年齢児 ● 河原田保育園	74
12	園小接続 ● 三重小学校区	80
	● 下野小学校区	86
13	実践版作成にかかわってくださった皆様	92
14	編集後記	94

園名の中の丸の色について

- 私立地域型保育事業所（事業所内保育事業所）
- 私立保育所 ● 公立保育所 ● 私立幼稚園 ● 公立幼稚園
- 私立認定こども園（幼保連携型）
- 公立認定こども園（幼保連携型）
- 公立認定こども園（幼稚園型）



四日市市幼児教育・保育研究協議会では、教育・保育関係者はじめ、地域・保護者の皆様と共にこどもたちに確かな未来をつないでいくために、さらなる取り組みの一步を進めようとしています。

3年前に「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」を作成し、昨年、四日市市の保育者の一人ひとりが現場で活かすことができるようにと「四日市市就学前教育・保育カリキュラム活用版」を作成しました。今年度は、本研究協議会において、教育・保育関係者の皆様の実践の一部を「四日市市就学前教育・保育カリキュラム実践版」として、発刊する運びとなりました。

幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）に、『こどもの誕生前から幼児期まで』は、人の生涯にわたるウェルビーイングの基盤となる最も重要な時期である。全世代の全ての人でこの時期からこどものウェルビーイング向上を支えていくことができれば、『こどもまんなか社会』の実現へ社会は大きく前進する。」とあります。

四日市市の各就学前教育・保育施設でのこどもの育ちを小学校教育へつないでいく営みが、どの子にも公平な育ちを保障し、ビジョンで示されたことの実現へと近づいていけるのだと考えます。こどもにかかわる大人自ら主体的な行動を起こし、「こどもまんなか社会」の実現をめざしていくための一助になれば幸いです。さらなる実践の積み上げの糧となることを願っております。

令和8年3月

四日市市幼児教育・保育研究協議会 委員一同

2

実践版に寄せて

このたび、四日市市就学前教育・保育カリキュラムおよびその活用版に続き、実践版が刊行される運びとなりましたことを、研究協議会の一人として大変うれしく思います。

この実践版には、市内の幼稚園、保育所、こども園、地域型保育事業所、小学校から、運営主体の垣根を超えて、13の実践が寄せられています。そこに共通しているのは、四日市市のこどもたちの成長と幸せを願い、育もうとする実践であるということです。本書は、市内のすべての園で、市内のすべてのこどもたちを育てていくのだと腰を据えて取り組んできたプロセスにおける一つの成果であり、同時に次につながる足場であるといえるでしょう。

さて、この実践版では、年齢ごとに各園の実践が、以下の項目に沿って紹介されています。

まず、「園の環境」の項目では、各園の工夫が詰まった魅力的な環境が紹介されています。今、本書を読まれている先生方の目の前にある環境にも活かせる工夫が、きっと見つかることでしょう。園を超えてアイデアを共有できることによって、こどもたちの生活はより充実し、豊かな経験につながっていくはずです。

次に、「そだち」の項目では、その年齢においてこどもたちが、どのように世界を感じ、経験し、育とうとしているのかを、各園が実践において大切にしている思いとともに書かれています。さらに、次の頁に掲載されている「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」の「ねがい」と結び合わせてとらえることで、理解はあっそう深まるのではないかと思います。もちろん、育ちは年齢でくっきりと区切られるものではありませんが、育ちを見通し、自身のクラスで大切にしたいことを考え続けていくための確かなよりどころとなるでしょう。

そして、「あそび」の項目では、各園の豊かな生活や遊びが、カリキュラムや資質・能力との関連とともに示されています。それは、カリキュラムや資質・能力にこどもたちの姿を当てはめることによってではなく、こどもたちのいきいきとした姿や声が丁寧に聴き取られ、その意味や価値とともに綴られることを通して行われています。こうした大人のまなざしがあってこそ、外側から見てわかりやすい「できるようになったか」「よりよくなったか」という評価ではない、こどもたち自身の生活や遊びの中にある育ちを見出すことが可能になるといえるでしょう。そして、そのまなざしの中でこそ、こどもたちは自分を信じ、世界に期待をして、「やってみよう」といきいきと動きだしていけるのではないかと思います。

また、小学校や中学校の先生方には、「あそび」の項目の中の「つながっているね」の部分に、まず注目していただけるとよいのではないかと思います。そこでは、子どもたちのどのような姿を育ちにおいて大切に、それがその後の育ちにいかにつながると考えているかが示されています。園生活は「生活」であるがゆえに、区切られることなくゆったりと流れており、時に、些細で何気ない瞬間の連なりのように感じられることもあります。しかし、そうした一見些細で何気なく見えるひとときにこそ、子どもの育ちや学びが生まれています。それらをとらえて一緒に味わえること、そしてその先につながる未来の子どもたちの姿と一緒に見通せることが、乳幼児期と学童期以降をつなぐ接続の基盤になると考えます。本書は、この基盤をつくっていく足がかりとしても役立つことが期待されます。

本書は四日市市幼児教育センターを結び目として、四日市市においてこどもたちをまんなかにしてその成長と幸せのために協働する人びとによって作りだされました。今後、この協働の輪がさらに広がっていくとともに、それによってこどもたちの豊かな生活が紡ぎだされていくことを心から願っています。

四日市市幼児教育・保育研究協議会委員
三重大学 教育学部
准教授 水津 幸恵

3

めざしたいこと ①

環境を通じたこどもの育ちを考えよう

- こどもが興味・関心をもち、「もっと知りたい」「やってみたい」という気持ちを引きだしていこう。

自ら選んで、集中して遊び、成功体験を積むことで、自己肯定感が高まり、学ぶことの意欲が育まれます。

こどもが夢中に遊べる環境が、こどもの主体的な学びや非認知能力の育ちを支えるよ



- こどもが魅力を感じ、「なぜだろう」「どうなっているんだろう」という問いを生みだしていけるようにしていこう。

遊びを楽しむ中で、「あっ、そうか」と発見したり、「どうしようかな」と試行錯誤したりし、自ら課題を見つけ、解決しようとする探究心を発揮していきます。

- 友だちと協力しようとしたり、わたしは「〇〇するから、あなたは△△して」と役割分担しようとしたりするなどの協同的な遊びを生みだしていこう。

遊びが発展する中で、多様な人とかかわり、葛藤を乗り越えたり、相手の気持ちを想像したりします。

- 園にあるいろいろなものから学びが生まれる、こどもが経験したことを学びにつなげていこう。

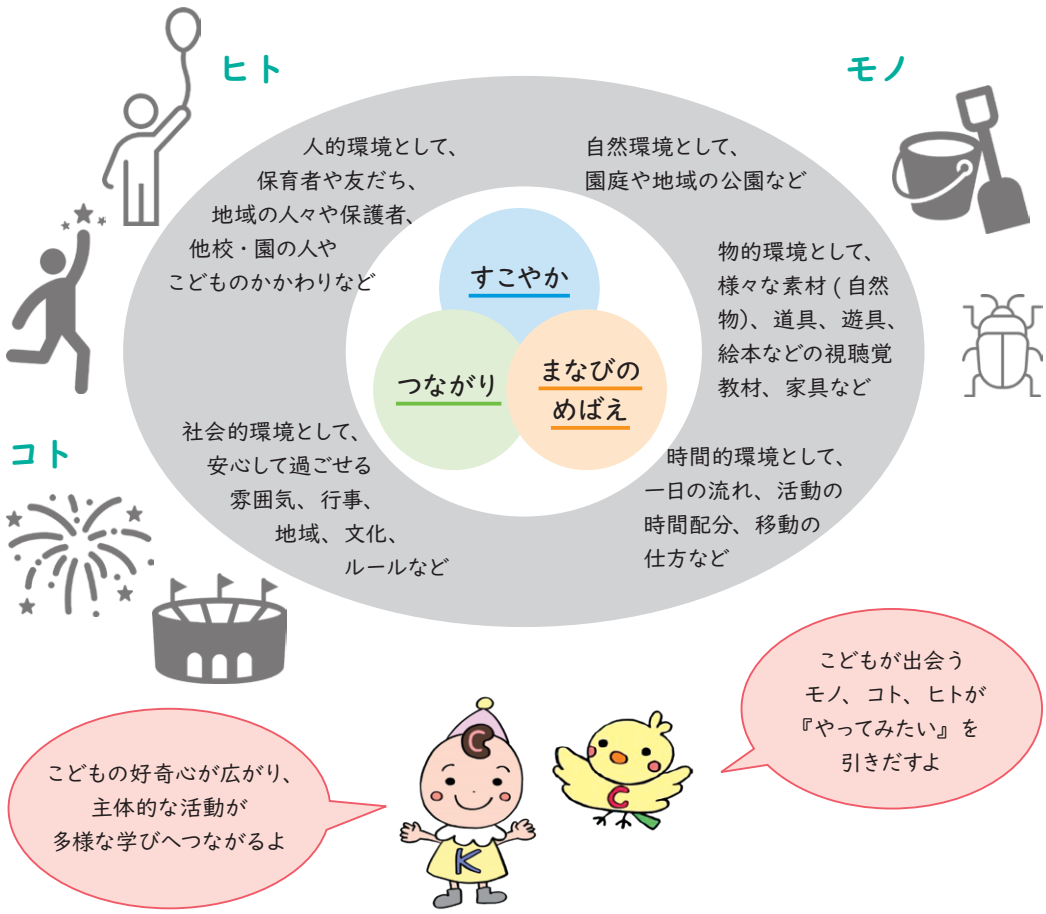
遊びが発展し、分かったこと、できるようになったことを、こどもが別の場面や場所でも「あっそうか、そうなんだ」というふうに気付いていく経験をしていきます。

「すこやか」「つながり」「まなびのめばえ」を視点にし、活動や環境構成を意図的に位置付けつつ、こどもの発見や発想に応じ、遊びを展開していくことをポイントにしています。

安心感と信頼感をもち、身近な環境にかかわり、
遊びの楽しさや心地よさを味わい育てる就学前教育・保育

～こどもは、自分たちを取り巻く環境とやり取りし育まれていく。五感を通して、「わかった」ことを経験へと広げていく。モノは、こどもの探究の道しるべとなって、コトを起こし、ヒトとかかわり、様々な思いをつくりあげていく。こどもと大人が共に探究する営みが、遊びこみ遊びきる、学びのプロセスとして、一人ひとりの主体を発揮させていく。願いが響きあい、モノ、コト、ヒトとかかわり、今を生き、未来につながる。～

何が好き、何に関心がある…	▶▶	どのような素材を選び、発見やアイデアを表現するのかな
何を感じた、喜んでいる…	▶▶	学びを触発し、豊かにする安心できる場所はどこかな
共に過ごす、かかわる…	▶▶	発見を共有し、問いかけ、学び、学びあう関係をつくっていく
どう見通しているのか…	▶▶	手助けしてもらえる、見守ってもらえる安心感を体験していく



3

めざしたいこと ②

こどもの育ちをよくみて、面白い・わくわくをこどもと共有しよう

こどもの姿を読みとくポイント

● 何をしているのか

- ・どのような遊びをしているか。
- ・何に触れているか、何を使っているか。
- ・どのような身体の使い方をしているか。

何に興味をもっているかな
どんな遊びに夢中かな

● どのようにしているか

- ・活動に集中しているか。
- ・楽しんでいるか、困っているか、試行錯誤しているか。
- ・動きやモノの扱いはどうか。
- ・コミュニケーションの取り方や表情や声はどうか。
- ・友だちと一緒に遊んでいるのか、一人で遊んでいるのか。
- ・保育者とのかかわりややり取りはどうか。



● どう感じているのか

- ・どのような表情をしているのか。笑顔、活発な動き、興奮した声など。
- ・こどもの目線で全体をとらえる。
- ・〇〇の気持ちかなと見立てる。

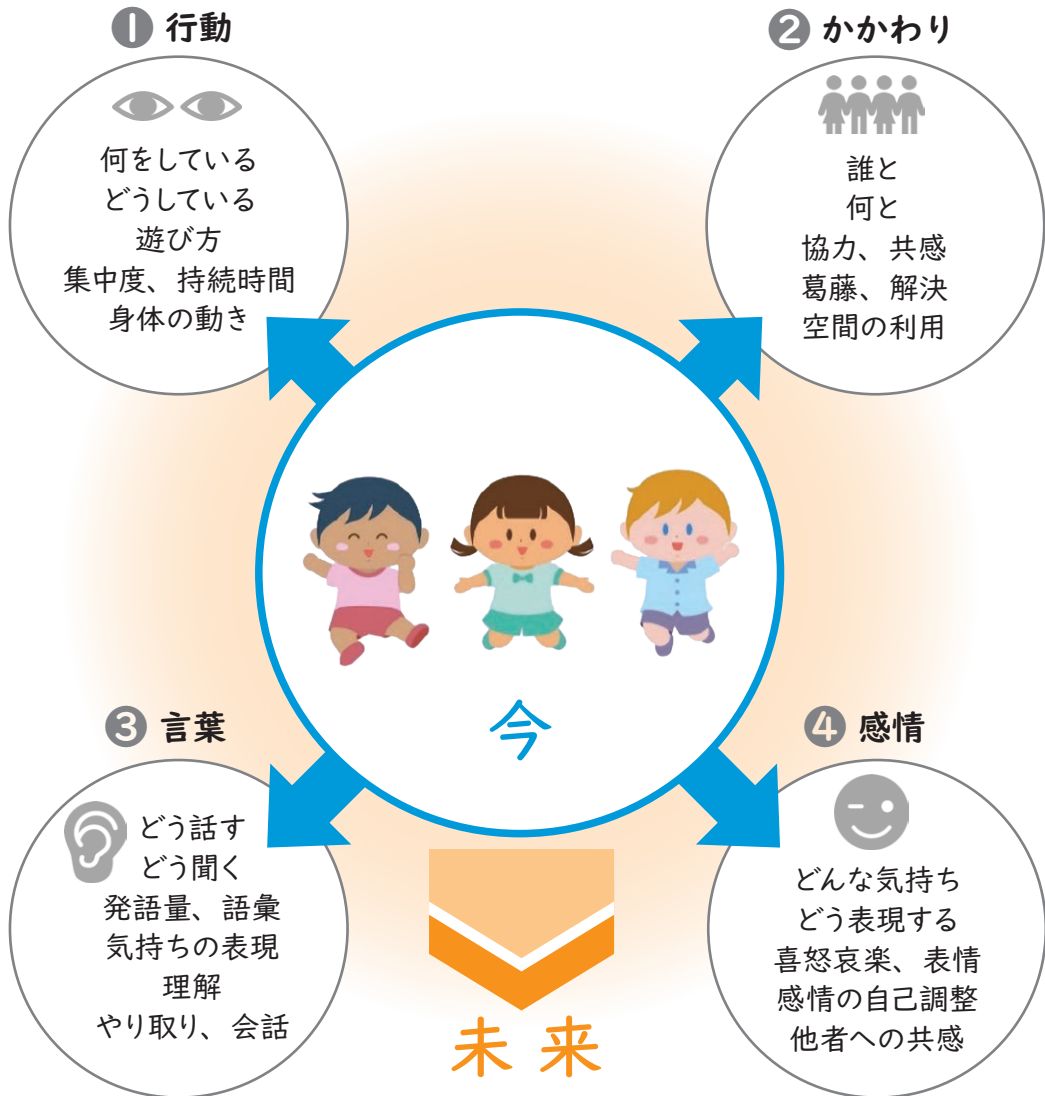
今はこの発達の段階かな
それでは、どんな経験が
次に必要かな

友だちと
どんなふうにか
かかわるのかな



こどもの育ちを理解する
「なぜ？」 「なにを？」 「どうする？」
(目的) (視点) (活用)

こどもの「今」を「未来」につなげる



個別最適な支援 遊びの進化 学びの連続性
こどもの主体性の育ち 未来につながる力 共に育ちを支える
よりよい園環境へ

3

めざしたいこと ③

遊びの姿を
分析しよう
1つの遊びに様々な
育ちがあるよ

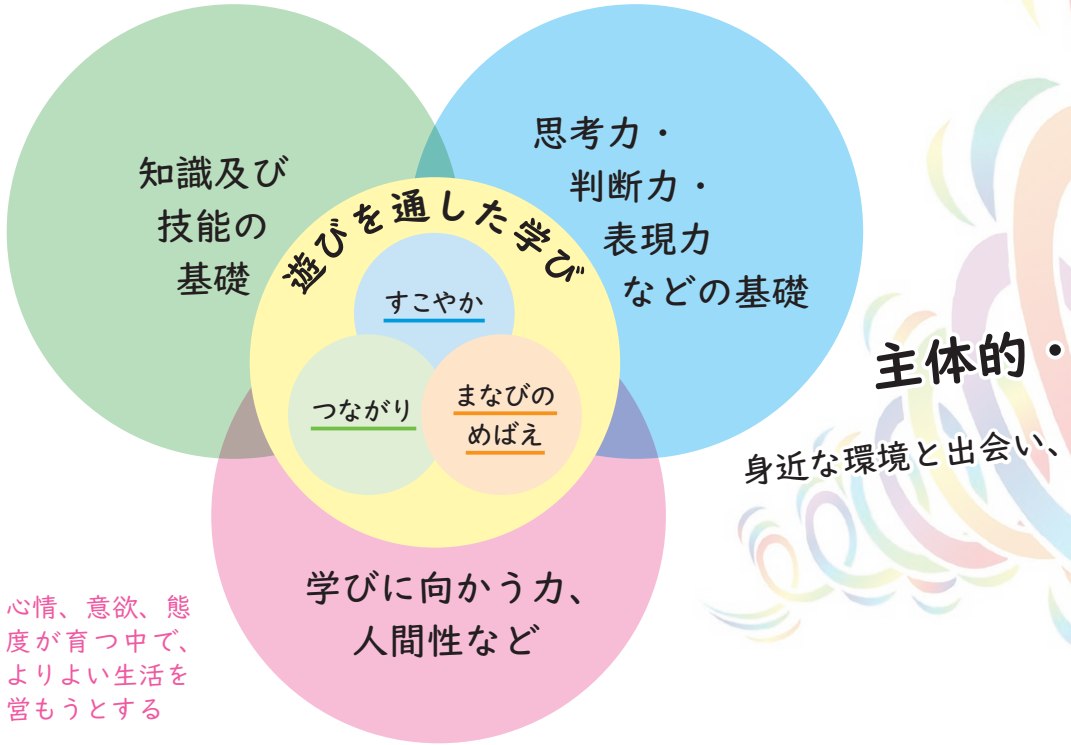
こどもの学びや生活の基盤を育もう



就学前の遊びと生活

豊かな体験を通じて、こども自ら感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする

気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする



心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする



遊びを通して育ちつつある姿を3つの資質・能力の視点から捉えてみよう
3つの資質・能力を色分けして示しているよ
事例の色分けも3つの資質・能力の色分けを示しているよ

小学校の教育へ

何を理解しているか
何ができるか

理解していること・できる
ことをどう使うか

知識及び技能

思考力・判断力・
表現力など

学びに向かう力、
人間性など

対話的で深い学び

どのようにかかわっているか

どのように社会・世界と
かかわり、よりよい人生
を送るか

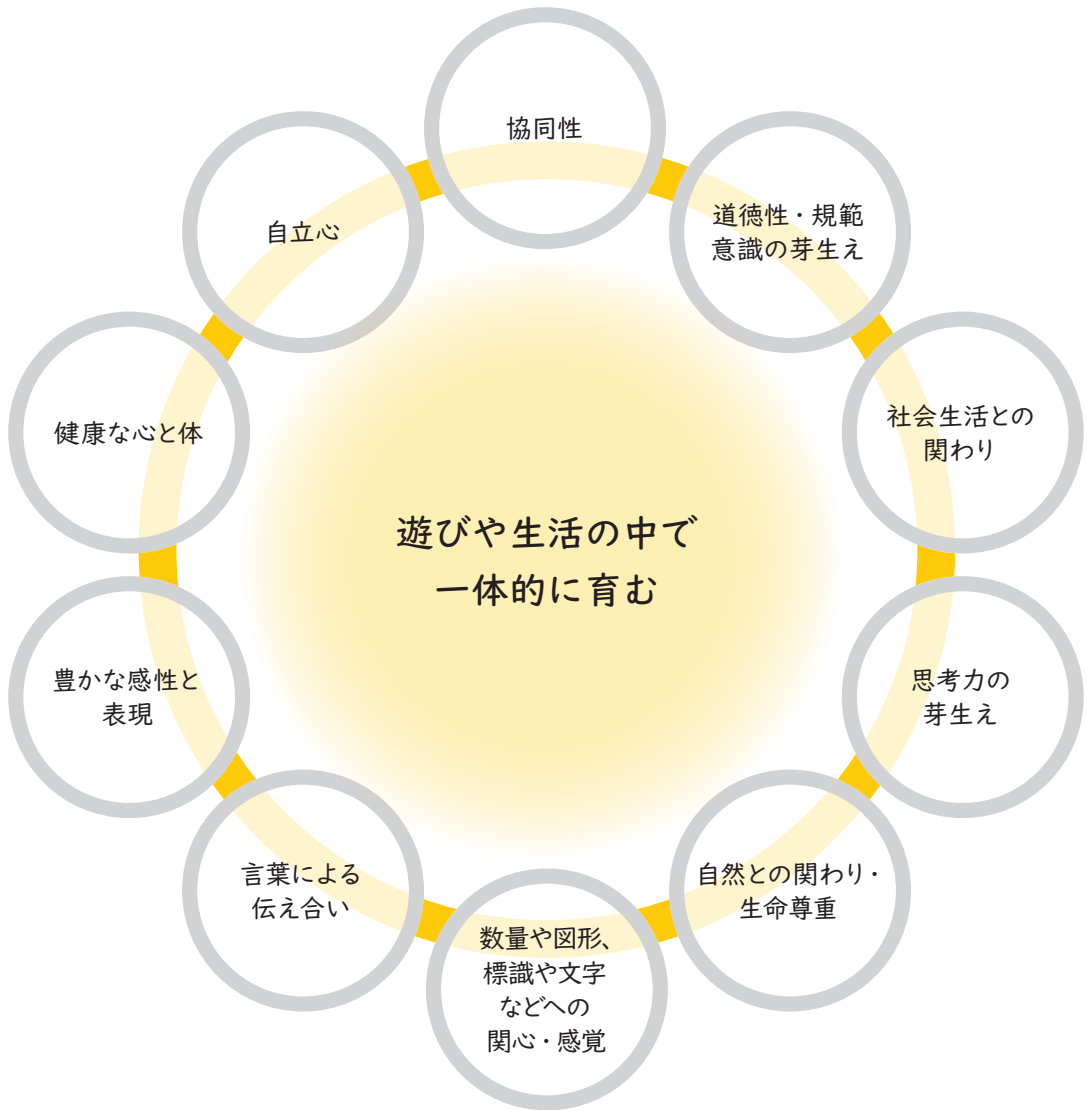
遊びは学び
学びは遊び♪



生きる力を育む
～学びの連続性を大切に～
育ちのプロセスをつなげる

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）

就学前教育・保育と小学校教育とのなめらかな接続に関して「3つの資質・能力」を具体的な姿として表したものです。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達すべき目標ではなく方向目標であること、個別の評価のものさしではないことに十分留意する必要があります。



※引用した文中の「幼稚園」の用語は、本書では「就学前教育・保育施設」を指します。

●知識及び技能の基礎 ●思考力、判断力、表現力等の基礎 ●学びに向かう力、人間性等

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感を持って自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって言葉などで表しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

4

実践版作成にあたって

実践版作成にあたって、はじめに「園の環境」などについて紹介し、「めざしたいこと①」（本書P4）に示した内容を提示しています。施設の外観や周辺の様子、あるいは各施設で取り入れている環境を示しました。

次に、「そだち」の項目では、「めざしたいこと②」（本書P6）に示したように、こどもの姿を理解し、プロセスをわかりやすくとらえることができるように提示しました。「あそび」が生まれる背景や各施設の風土、園ビジョンが伝わるように記載しています。

「ねがい」は、「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」より、各年齢に応じた「ねらいと内容」や「保育のポイント」の文言を提示し、「園小接続」については、「第4次四日市市学校教育ビジョン」より引用しました。

「あそび」は、四日市市幼児教育センターが各施設や園へ訪問し、やり取りした活動を記載しました。「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」における3つの視点としている「すこやか」「つながり」「まなびのめばえ」の内容や保育者のかかわりは、角丸四角形の中に示し、文章の「すこやか」は青の下線、「つながり」は緑の下線、「まなびのめばえ」はオレンジの下線を引きました。

また、小学校教育との接続をわかりやすくするため、遊びの中で、育ちつつある3つの資質・能力について「学びに向かう力、人間性など」はピンクの文字、「思考力、判断力、表現力などの基礎」は青の文字、「知識及び技能の基礎」は緑の文字で示しました。そして、「つながっている」こどもの育ちを紺色の文字で表記しました。

（次ページの解説を参照）



解説

11

異年齢児

河原田保育園

子どもがである環境（モノ・コト・ヒト）

園舎の中に入ると大きな音が聞こえてくる。子どもたちの心を惹きつけているのだろうか。生き物は、何も変わらず

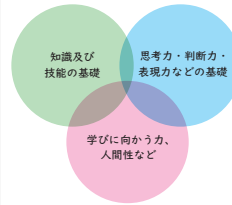


園名の前の丸の色について

- 私立地域型保育事業所（事業所内保育事業所）
- 私立保育所 ● 公立保育所 ● 私立幼稚園 ● 公立幼稚園
- 私立認定子ども園（幼保連携型）
- 公立認定子ども園（幼保連携型）
- 公立認定子ども園（幼稚園型）

下線の色について

保育者のかかわりが「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」の3つの視点「すこやか」（青の下線）「つながり」（緑の下線）「まなびのめばえ」（オレンジの下線）にどのように関連しているか、下線を引き、あらわしている。



ピンクの文字について

「3つの資質・能力」の学びに向かう力、人間性などが育っている姿をあらわしている。

緑の文字について

「3つの資質・能力」の知識及び技能の基礎が育っている姿をあらわしている。

青の文字について

「3つの資質・能力」の思考力、判断力、表現力などの基礎が育っている姿をあらわしている。

実践の題名

あそび

リレーしたい子集まれ

子ども同士で、チームに分かれ、走る順番を決め、リレーが始まる。子どもたちの様子を見守り、そと「よーいドン」の合図をおくる。

すこやか

つながり まなびのめばえ
5歳児が「順番をスタートしている中に、4歳児も文じって、負けずに走りぬく姿」

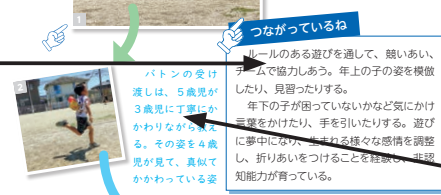
子どもや保育者の言葉や思いをあらわしている。



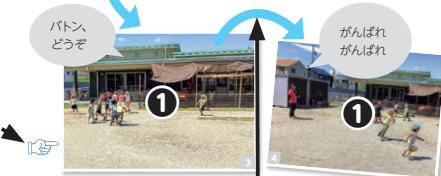
リレーはトラックの周辺を走り、つながり 走ると知っている姿

就学前教育・保育の遊びを通した学びの姿が小学校教育へつながっていくことを示している。

（指差しが示している写真が具体的な姿としてつながっていることを示している）



つながっているね
ルールのある遊びを通して、競いあい、チームで協力しあう。年上の子の姿を模倣したり、見習ったりする。年下の子が困っていないかなど気にかけて言葉をかけたり、手を引いたりする。遊びに夢中になり、手もれる様々な感情を調整し、折りあいをつけることを経験し、非認知能力が育っている。



バトン、どうぞ

がんばれ、がんばれ

78

写真をつなぐ矢印（ピンク、青、緑）は、実践の展開順を示している。また、記入されている「3つの資質・能力」の具体的な姿を文だけでなく、写真からも読み取れるように、色別の矢印を配置し、示している。

①の写真に青の矢印がかかっているのは、紙面にある「3つの資質・能力」の「思考力、判断力、表現力などの基礎」が育っている具体的な姿を示している。

5

0歳児

西浦保育園

こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園舎外観

園の環境



門を入り、玄関に向かう通路には、植物が植えられ玄関口では生き物が飼育されている。モノと向きあう場所と機会が散りばめられている。



階段の踊り場で、一息つくと、目の前に置かれた食事（展示食）から栄養バランスのよさがわかる。また、「今日、いただいた命を感じる」瞬間を広げる。



降園時には「今日は何を食べた？」と、こどもと保護者の会話が聞こえてくる。その横には壁にタペストリーがあり、めくって楽しむ仕掛けになっている。「ここに何があるのかな」と、こどもと保護者が目の前にあるモノを見つめあって語らうスペース、さりげない環境が心をほぐす。

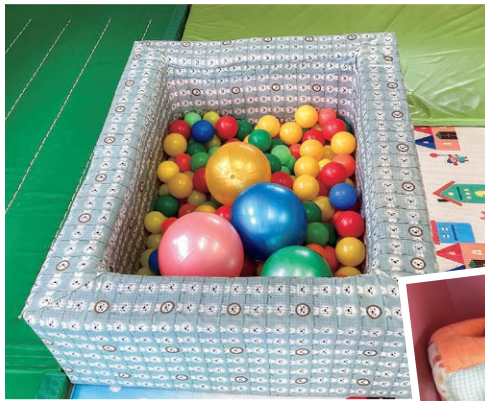
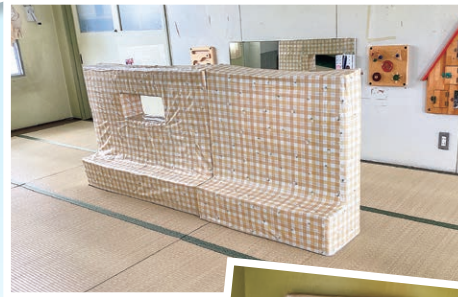
室内環境



モノを見て気付く、
思い出す、考える、
そして、モノにかか
わる主体が発揮され
る。その子の気付き
が始まる心の動きに
寄り添い、分かりや
すくモノを整える。



体験を踏まえ、こどもの視
線で捉えやすいことに配慮し
た壁や棚を活用した環境を通
して、イメージを広げるこど
もの遊びの始まりがある。



体を使い、五感を通した遊びがこどもの感触の味わ
いを広げ、同じことを体験しているのに一人ひとりの
学びが違ふ。モノに触れ、繰り返し遊ぶ。そこで起こ
る「わたし」のモノへのかかわりが経験になっていく。



そだち



「しゃぼんだまとんだ♪」
「ほら、みてみて」

保育者と一緒に、やりたいがはじまる

保育者がそばにいる、少し離れても、ふっと保育者の姿を追うと視線が交わる、こどもが安心感を持ち、様々な環境に触発され、一人ひとりの「やりたい」がそっとはじまった。

保育者がその子のやりたいに静かに寄り添い、こどもの笑顔と喃語が保育者に届く瞬間を大事にしてきた。目に触れるもの、耳に聞こえるもの、手で触れられるもの、様々なものに好奇心をもって試したり、繰り返したりする姿から育ちを感じ取ってきた。



保育者の口ずさむ歌にあわせて、やり取りを楽しむ。



「ころころころ」と優しい音にひかれて、遊びが始まるかなと、視線をあわせる。



ねがい

安心と信頼の基地となり、
やりたいにつながることも

安心できる保育者との関係の中で、自分の思いを安心して表現したり、やり取りしたりする楽しさを感じる。

保育者と物のやり取りをすることを喜ぶ。

様々な経験を重ねる中で、自分の気持ちを表情や態度で表現しようとする。

保育者に自分の好きな絵本を読んでもらうことを喜ぶ。

保育者と一緒に体を揺らしたり声を出したりして、歌や手遊び、まねっこ遊びを楽しむ。

見守りの中、安心して遊び、見る、聞く、触るなどの五感を使った遊びを豊かに体験できる環境を整え、探索を楽しんだり、友だちとかかわって遊んだりする機会をつくるようにする。

指さし、表情、片言など、こどもの発見・気づきの喜びをくみ取り、自己表現を受け止め、共感して言葉に換えて伝えるようにする。



あそび



出典「いないいないばあ」
松谷みよ子（童心社）



すこやか

つながり

まなびの
めばえ

保育者の柔らかい声と絵本の絵から、大好きな世界をイメージし、自己表現している姿

こどもの要求を受け止め、指さしや表情をくみ取り、自己肯定感を育てていく。保育者とのやり取りを期待し、じつくりと絵本を楽しんでいく。



絵本を読んでもらい満足し、絵本をもとに戻そうとする姿



あっ、あっ



つながっているね

自分の好きなもの、好きなことを保育者に伝え、やり遂げようとする姿の育ちが非認知能力へつながっている。モノの扱いに気付き、どうすればよいか工夫し、やろうとする意欲が学びの芽生えにつながっている。

こどもが自分から気付き、見通しがもてた行動を受け止めて、「自分でできた」という達成感を支えていく。保育者の真似や同じことを繰り返す中で気付いた変化に共感し、愛着形成をさらに深めていく。



片付けた絵本の隣の表紙をよく見ると、大好きな絵本があることに気が付いたこどもの要求に寄り添い、「次はこの絵本が見たいんだね」と言葉で表現して、やり取りをしていく。

自分のやりたい気持ちを発揮し、保育者の手助けを受け、意欲的に絵本を見ている姿

つながっているね

繰り返し読んでもらっている大好きな絵本のイメージが徐々に明らかになり、絵本の登場人物とやり取りしている姿が、学びの芽生えにつながっている。



表情や手の動きを通して、「いないいないばあ」の言葉表現している姿



絵本のこどもの絵をみて、自分だと気付いて自分の鼻を指さし、主張している姿

保育者の温かい語りかけを心地よく感じ、自分で感じたことをありのまま表現し、絵本の余韻に浸っている姿



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境

モノが静かに、ゆったり、置かれている棚は、落ち着いた空間をイメージし、こどもに安心感を与える。

「今日は、これをしよう」と手を伸ばす時もあれば、「何をしようかな」とモノへのかかわりを探る時もある。

その時その時のこどもの気持ちに寄り添うのはモノとこどもの関係を見守るヒトのかかわり。



園舎外観



バスのお客さんが乗車中
こどものイメージがふくらむように設定されている。



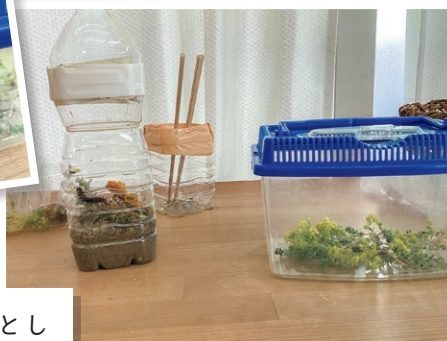
こどもの視線の先に「やってみたい」の思
いが出する遊具が、設定されている。遊具に
じっくり視線を向け、考え、遊びだすまでの「間」
が用意されている。「人間」「空間」「時間」…。



自然物・園周辺の環境



カタツムリ



保育室の飼育コーナー

どんなところにも自然がある。自然を環境として、こどもの生活や遊びにどう取り入れていくか。

保育者のモノをとらえる主体が発揮され、こどもとモノの関係を支えている。モノを見ようとする心を育むために、園周辺に心を配る保育者がいる。

見過ごしがちな自然の生き物について、こどもに伝えようと工夫していく。



園の周辺には、消防署や公園があり、こどもたちの大好きな場所になっている。地域環境を強みにしていくというモノの見方を取り入れ、こどもと探究していく。

園周辺で見つけ、身近な虫を保育者が飼育し、こどもも「動く」ことに興味をもって、かかわることで変化が生まれ、発見する。親しい保育者の存在がモノとつなげる。

そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる



「お仕事、いって
らっしゃい！」

不安な時、そっとかかわる保育者がそばにいる安心感とゆったりとかかわる信頼感が、こどもの園生活をつくる。一人ひとりのこどもが、「何をしようかな」と心を動かせ、新しいことに挑もうとする瞬間にそっと寄り添う。

自然に、ヒトやモノにかかわる心地よさを感じていくことを大切にしてきた生活がある。



「ここ」「何がいるのかな」
指さしの先をこどもと共感し、言葉とイメージを広げる。



2歳児の友だちの姿に刺激を受け、寄って行ったり、まねっこしたりする。

モノを介して大人とのやり取りが盛んになり、部屋にいる一つ年上の子の様子も気かけられるようになってきた。「何をしているのかな、自分にもできるかな、やってみたいかな」と小さな社会体験を自然に積み上げ、意欲の芽が伸びていく。



ねがい

安心できる環境で、「やってみたい」が
いっぱい生まれ、育つ子ども

保育者との信頼関係を深め、友だちとのかかわりをもつ。

保育者やクラスの友だちと一緒に遊ぶことを喜ぶ。

要求や自分の気持ちを身振りや簡単な言葉で伝えようとする。

簡単な指示が分かり行動することがある。

室内や戸外で、触れる・試す・驚くなどの、探索活動を十分に楽しむ。

一人遊びがじっくり楽しめるように、環境を工夫したり、こどもの
興味・関心に合った玩具を設定したりする。

様々な体験を共有し、こどもの発見や驚きを受け止めたり、こども
の遊びに「～だね」など意味付けをしたりして、物の名前や要求する
言葉、感情を表す言葉などを使えるよう、ゆったりとかかわっていく。



あそび

「ぼーぼーしゃ」
「あっ、あっ」

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

救急車の音が
するね

散歩で何回も聞く救急車
の音に気付いた姿

救急車のサイレンの音が聞こえてきて、
保育者や友だちと一緒に『救急車だね』と
知らせあったり、共感したりしている姿



あっ、あっ



繰り返し、同じコースを散歩することで、こども自身が見通しをもち、イメージすることで、指差しや発語へつなげている。

こどもの視線に目線を合わせ、同じ方向を向きながら、「〇〇だね」と言葉に置き換えることで、保育者の言葉を真似て、「ぼーぼーしゃ」（消防車）とこどもが呼応した言葉を温かく受け止めていく。



消防車だね

保育者の言葉を
真似て、消防車と
言おうとする姿



ぼーぼーしゃ
（消防車）

つながっているね

毎日の生活や遊びの中で、
経験を重ね、保育者とのやり
取りを通して、イメージをもち、
言葉が増え、伝えたい気持ち
が、学びの芽生えにつながっ
ている。



すべりだい

今回は、2歳児の友だちが一緒に行くことで、2歳児の子の言葉を聞き、1歳児が地域の環境を通し様々な刺激を受け、真似しようとする意欲を育てている。

そうだね、
あっちには
公園があるね



2歳児の友だち
の気づきを聞いて
いる姿



ぞうさん

幼稚園!

ぞうさん
見たね
幼稚園だね



あつ、
パトカー



2歳児の友
だちの気づきを
聞き、保育者と
一緒にパトカー
を探し、目の前
を通り過ぎた後
に気付いた姿



パトカー
行ったね



1歳児、2歳児が一緒に散歩する中で、いつもの場所に安心し、みんなで気づきを共感している姿



つながっているね

年上の子と一緒に心地よく
過ごす中で、動きをよく観察
し、真似しようとすることで、
観察力や集中力が養われる。

こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境



園舎外観



玄関フローアー
天井を利用し、季節を知らせている。届かない指先の先に広がる世界を安心して共有する。



畑の様子

園舎の中に、保護者と共に入ることの気持ちは、何を感じているのだろう。

保育者は「送ってくれた家族と離れても、ここで、安心して過ごそうと思える居場所であってほしい」と願っている。

誰もが、前向きで元気になれるモノ、コト、ヒトを求めて、一日のはじまりの場所を大事にしていく。

園庭にあるシンボルツリーや畑も、こどもの心にそっとささやき、感性を育む。



室内や外の環境



部屋から外を見ると、遊びたくなる遊具がすぐに見える。こどもの「やってみたい」「試してみよう」の気持ちを引き出す設定。

でも、「できない」という時もある。しかし、それもこどもが「やりたいけどできない」「やりたいけど今はやらない」と葛藤し、乗り越えようとする主体を育む。

「おうちに入って何をしよう」と見立て、遊びたいと思えるままごとやおうちがそろっている。生活体験を身振りとかたこで表現し、「まんまおいしい」と遊びが広がっていく。

表紙の見える絵本が、手に取ってみたいと、こどもの心情に働きかける。

保育者が口ずさみ、こどもたちが歌う童謡の世界が浮かび上がる。

自然物や保育者の手作りで表現され、こどものイメージが輪郭を帯び、言葉へつながっていく。

そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる



「ねんね」と人形に言葉をかけ、寝かしつけ。一人遊びを楽しめるようにしていく。

こどもたちが安心して過ごせる空間や時間を大切にし、保育者が安心の基地となれるよう一人ひとりの要求を受け止める温かな場所がある。

いつもの場所にいつもの遊具があることや、遊びや生活の流れに見通しをもつことで、こども自らの自信につなげていく。

世界が広がり、大人の一歩一歩の成長にも、自信をもち挑戦しようとするこどもの姿があった。



「これ（つけて）」「(次は私)」給食の時の保育者と一緒だとイメージし三角巾をつけると得意げな表情に…こどもの興味・関心につなげていく。



「はい（どうぞ）」
「モグモグ、おいしいよ」
保育者に作ったごちそうを食べさせてあげるんだと満足気な様子…こどもの意思を受け止めやり取りしていく。



ねがい

安心できる環境の中で「あこがれ」をやってみようと思うこども

保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の回りのことに興味を示す。
保育者との信頼関係を深め、友だちとのかわりをもつ。

スプーンやフォークを持って、援助されながら自分で食べようとする。

坂道や段差など、いろいろな場所を歩くことを楽しむ。

保育者やクラスの友だちと一緒に遊ぶことを喜ぶ。

簡単な指示が分かり行動することがある。

「自分で」という気持ちを大切に、できないところは保育者がさりげなく手助けをしながら「できた」という満足感を味わうことやこどもの興味・関心にあった玩具を設定したりする。

楽しく食事ができるように、一人ひとりの食事量、食べ方（噛み方）、し好等を把握し、柔軟に対応していく。



あそび

「やったー」
「おんなじ、おんなじ」

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

友だち
を真似て、
滑ろうとし
ている姿

少しの斜面に気がついて、これは遊んだ
ことのある滑り台に似ているなあ、滑ってみ
ようと思っているが、滑りが悪いため、どう
してかなと考えている姿



できた

あれ、
(滑らない…)



ごろん、
ごろん



今度は、斜面を
転がったね

つながっているね

全身を使い、体を動かすことの楽しさを感じる
ことが学びの芽生えにつながっている。

部屋の中にこどもが試したい、こんなことできるかな、こんなふう^ににやってみよ^うと体を使い遊べる環境を設定することで、やりたい意欲がこども同士に広がって、真似っこしながら、お互いに同じことができたことを共有し、次の遊びの意欲につな^がって^いっ^ている。

繰り返し試すことで、こども自身が新たな体の動きを発見し、まわりのこどもたちへも広がっていくように保育者が見守り、時には体の動きにリズムをつけて、人とかかわりの心地よさを知らせていく。

友だちや保育者の様子に興味をもち、そばにいる姿や真似する姿

びよんびよん



おんなじ
おんなじ

モノはしっかり握らないと
運べないと知っている姿

こっち



やって



♪ころころ
こ〜ころこ

遊びに満足し、給食を食べることを知らせると、生活の見通しが育ちつつある。

片付けることが、モノを決まった場所に戻そうとする発達の節目とかさなり、自分でやりたいという意欲を育み、保育者と一緒に楽しんでいる。

よいしょ

保育者や友だちと体を使って遊び、使ったモノを元の場所に戻し、満足した様子で、意欲的に自分で食事している姿



できた



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境

事業所内に併設された園舎。一見すると、こどもたちはどこで遊んでいるんだろうと思ってしまう。

施設内には、訪問者や利用者のすべての人を温かく迎えようとする手作りのモノたちが置かれている。



園舎外観



遊戯室には体を使って遊べる遊具がこどもたちのワクワク感を引き出す。玄関口とは対照的に、こどもたちの元気な声が響きあう場所である。

保育室の環境



こどもたちがじっくり遊ぶことができる遊具が棚に分かりやすく置いてある。

保育者と一緒に、あるいは一人で、昨日を思い出し、今日が始まり、遊びが繋がっていく。



体全体を使って遊ぶ粗大運動を喜びと共に、じっくり静かにモノに向きあい、指先を使うことを楽しむ時間を保障する。

棚の遊具は、一人ひとりのこどもが「やってみたい」を求め、遊具を選び決めることを大事にする。

モノに触れ、遊び方を考える、迷わず遊びだす、それぞれに主体的にモノにかかわり、向きあうこどもがいる。

してほしいのか、したいのか…ヒトもまた、かかわりを見つける。

そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる



保育者との1対1のかかわりの中、面白さを感じはじめた絵本を見たり、手先を器用に動かすことを試す遊具で遊んだり、一人ひとりの「自分で」を發揮した遊びがある。



段差や台を見つけると「跳びたい」とイメージした姿があった。台にのぼってはおりをを繰り返すことを十分楽しむ。「やりたい」を実現しようと「モノ・コト・ヒト」とやり取りし、育まれていく姿が続いていく。

保育者がそばにすることで、こどもが安心感をもち、周りの環境に興味・関心を示し、「やってみたい」の気持ちが生まれることを願い、一人ひとりのこどもと丁寧に向きあって愛着関係を築いてきた。歩く、走る、跳ぶなど体を動かすことを喜び、試し、心地よい身体性を遊びの中で経験してきた。



室内の大型遊具に、一直線に向かっていき、自分のやりたいことをやってみる。「のぼれた」「すべった」という体験が、自信につながっていく。



ねがい

安心感のもと、友だちとつながる
楽しさを感じることも

全身を使った運動遊びや、じっくりと手や指先を使った遊びをする。
保育者の仲立ちで、友だちとかかわり、一緒にいることを喜ぶ。

走る、くぐる、よじ登る、降りる、跳ぶ、ぶら下がるなど、保育者と
一緒に全身を使った遊びを楽しむ。

身近な友だちに興味をもち、触れあったり同じことをしてみたり、
一緒に過ごすことを心地よく感じたりする。

保育者と一緒に絵本を見たり、手遊びをしたりして、好きなフレーズ
を真似して楽しむ。

こどもの思いや要求など伝えようとしている気持ちをくみ取り、
言葉に置き換えていく。

友だちと一緒にしたいという思いが満たされるように、保育者が
丁寧に仲立ちをしていく。

全身運動が活発になるため、活動の状態に配慮し、じっくりと遊べ
るように安全な環境を整えていく。



あそび

「うえから したから
おおかせこい」

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

6

1歳児
かすみ園

シフォンの布に興味・関心をもち、保育者のそばで、安心して遊ぼうとしている姿

ほら、
見えた



うえから
したから

やってみる

友だちの遊んでいる姿に興味・関心をもち、一緒にしようとしている姿

柔らかいシフォンの布と保育者の優しいわらべ歌をこどもの心にそっと届けていく。人とかかわる心地よさを感じていく。



遊びを予測し、保育者に追いかけてもらおうと逃げようとしている姿

つながっているね

遊びを通して、「何をしているの、楽しそうだな」と感じ、人とのかわりをもちはじめる。

社会的情緒の育ちにつながり、様々な人とコミュニケーションをとろうとする。

みーつけた



まて
まて

さらにほかの子も
繰り返される遊びを見
て、やってみようと、
シフォンの布を自分で
持ち出した姿



ばあ



保育者のわらべ歌をじっくり聞き、次に起こる
ことをイメージし、期待感をもち待っている姿



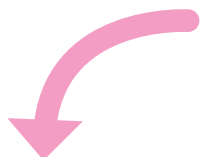
おおかせ
こい

保育者と共に楽し
んだシフォンの
布を使い、友だち
と一緒にやってみ
たいとモノの扱い
に戸惑いながら挑
戦している姿



ばあ

一人ひとりのこどもの
やってみたいという要求
を受け止め、ゆったりか
かわり、遊びを楽しむこ
とで、まわりのこどもたち
に、保育者とのやり取り
の心地よさが響き、少し
ずつ遊びが広がっていく。
こどもたちが「もっとやり
たい」、「あの子何してい
るのかな」と興味を寄せ
る遊びを仕掛けていく。



つながっているね

安心できる関係性のも
と、やってみたい遊びを求
め、こどもと保育者のあい
だにあるモノを使い、気持
ちのやり取りの経験を重ね
ることが、他の人との協同
的な学びにつながっていく。



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境



園舎の正面



玄関口の園名



園舎に入ってすぐの
棚に飾られているモノ
たちが心に寄り添う。

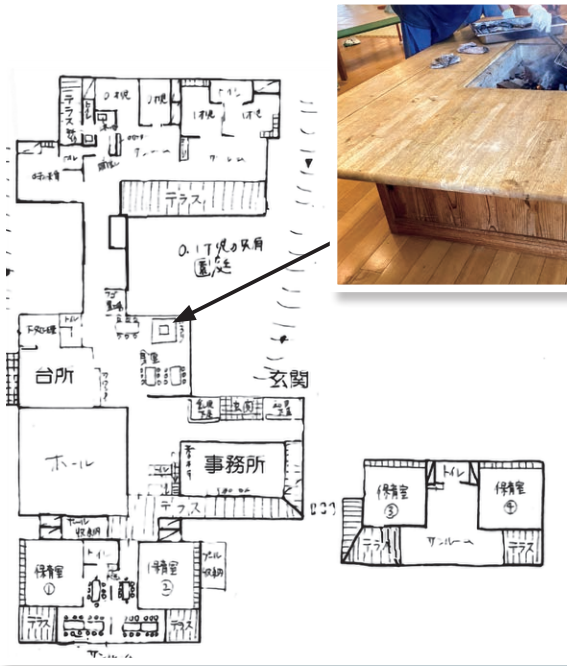


出典「きょうのごはん」加藤休ミ（偕成社）

今日の給食は何かな？」「今日は何を食べたのかな」
食べる意欲と生きる意欲はつながって、遊ぶ意欲に
つながる。メニューと絵本、一緒に生活している仲間
としての飼育物も、園を訪れる人を迎え入れる。

こどもが木のぬく
もりを感じ、自然の
一部としての「わたし」
がつながって、モノ、
コト、ヒトから学ぶ。
こどもがかかわる
モノの素材を選択す
るヒトの主体が表現
され、モノを通して
つながっていく空間
がある。

園内の環境



園舎の中心にある
囲炉裏では、様々な
食が生まれる。その
過程や瞬間を五感を
駆使して、とらえる
時間が流れる。

炭の音や匂い、
食材の焼ける音と香
ばしい匂い、肌に感
じる温度、みるみる
うちに食材が変化し
ていく。最後はのど
ぼとけを通る醍醐
味。一人ひとりのこ
どもの興味・関心に
寄り添い、食への意
欲を高めていく。

建物の真ん中に台所や囲炉裏がある。「今日のお昼は、なあに」と食べることに関心を寄せ、生きる意欲の源に触れる。こどもの気付きを引き出す工夫は、モノに支えられ、ヒトの温かさとして伝わっていく。こどもたちに願いを込めて届けていく。毎日の生活の中にあふれている。



そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる

7

2歳児

こどり保育園

こどもたちのまわりには、興味・関心を誘う環境が広がっていた。ビニール袋を手に持ち、花壇に咲いている朝顔やシソの葉をちぎって水を入れる。慣れた手つきで、ビニール袋に浮かぶシソや朝顔をそっともんで、緑や青の色がじっくり広がっていくのを見つめていた。

手の先に広がる不思議さと面白さを感じ、没頭する姿を見守り、こどものやりたいを発揮できる場をつくってきた。



シソが生い茂った畑がこどもたちの目の前に広がっている。



同じ、同じ、できたよねと視線を交えて伝えあう

「自分でやりたい」が、「自分でできる自信」と「できない現実」がある。その子の今を受け取る保育者が支えてきた。行ったり来たりするこどもの気持ちを安心できる保育者が受け止め、「できた」満足を味わってきた。

ねがい

保育者や友だちと
食べることを楽しむこども

保育者や友だちとのかかわりの中で、自分の思いや要求を伝えようとする。

身近な大人の言葉や行動を真似し、見立て遊びやつもり遊びを楽しむ。

友だちと一緒に楽しく食事をし、様々な食べ物を食べてみようとする。

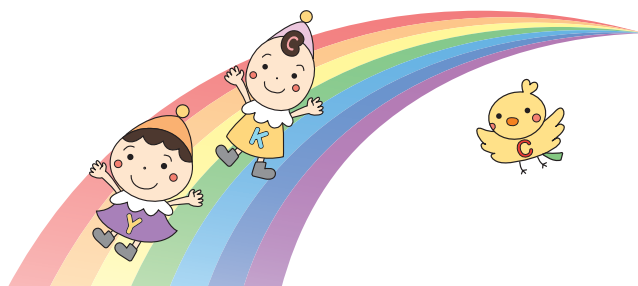
友だちとかかわり、ぶつかりあいや遊びの中で、保育者を仲立ちとして、自分の思いを保育者に丁寧に受け止めてもらって安心する。

簡単な手伝いを喜んでする。

楽しかった経験を自分なりの言葉で伝えようとする。

自分でしようとする気持ちを認め、自分なりにできたと思えるようにかかわり、次の意欲につなげたり、相手の気持ちに気付き、友だちや保育者とイメージを共有して遊べるようにしたりする。

友だちや保育者と一緒に食べる楽しさを感じられるようにする。



あそび

おさかな いっぱい

生の魚を目の前にし、
こどもたちの生き生き
した表情が生まれる。

「魚を触ってみたい」
「触っちゃえ」と意欲的
な気持ちを次の一步に
つなげる。

「やったー、できた、
おもしろい」「えっ、何々」
と魚への興味・関心が
一気に広がっていく。

たくましいこどもたち
の意欲は、次々と、つ
ながっていく。

興味・関心をもち、
保育者のそばで、魚が
持て、うれしさがあふ
れている姿

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

さかな
もてたね

さかな



本物の魚を
見て、そばに
あった魚の図鑑
絵本を持ってき
て、保育者に見
せている姿

出典「はじめてであうずかん
さかな」笠木實（福音館）

さかな
一緒だね



さかな
あるよ

さかな
つつん
みんなで
つつん



さかな
焼けるかな



焼けてるかな



囲炉裏で、魚が焼ける様子を見ていて、離れたところにいる保育者や友だちに知らせようとする姿

もっとちょうだい



さかな焼けたよ



焼けた魚一尾を保育者に分けてもらい、焼き立てを味見しようとしている姿

さかな食べてみようか



目の前で起こる全てが、五感を通して、吸収され、そして新たな意欲につながっていくように、こどもと共に保育者は生活していく。

つながっているね

囲炉裏を囲み、保育者や調理員のしぐさを見て、あこがれをもち、じっと見つめるまなざしの先に、こどもたち一人ひとりのやりたい思いが膨らんでいた。大きくなることへの期待はもっと知りたいとの学びの意欲へつながっていく。

さあ、給食を食べよう



今日はおさかなパーティと張り切って食事の準備をしたり、魚の身を取るのを見たりしている姿

お手伝いありがとう



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境



園全景



ウエルカムコーナー

園内のあちらこちらに、違う年齢のこども同士の交流やかかわりが生まれる。食につながる畑は、こども同士が関心をもち、行き交う場所でもある。

地域の人、保護者など、こどもを中心にして園と共に関係を築いていきたい様々な人。

そして、そのまんなかにいるこどもたちが、入園前から卒園後も訪れたいような居場所になれるよう「ウエルカムコーナー」と名付け、モノにこだわり、かかわり、つながる場として、手を加えていく。

共に育つ、メッセージを絵本が語りかけ、誰かにそっと、届くことを願っている。



野菜を育てている畑



園庭の環境



砂場の遊具

部屋から、テラスに出ると、すぐそこに砂場がある。

砂場は、こどもの興味・関心にあわせて変化し、姿を変えていく。固まった砂を耕しながら、こどもたちの遊び心をくすぐるしかけを思い描く保育者のひと時がある。

乾いた砂が、濡れることもある。いつの間にか川ができたり、山ができたりする。そして、一面海のように水が溢れることもある。

時には、ボコボコとプリン型の凹凸が一面を埋める。砂の可塑性がこどもたちへのプレゼント。多様な変化を生み、イメージを広げはじめる。

体を動かし、感触を味わい、イメージを言葉で表現し、遊びがつながる。

砂場と共に、どんなモノを置こうか、こどもの心にそっと寄り添う瞬間に、砂場とモノとヒトが次のコトを作り上げていく。響きあい育ちあう。



工事現場に見立てた遊びの環境

そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる



園内を自由に行き来し、こどもたちが興味・関心をもったコトに寄り添い、事務所前のメダカのえさやりをする。

園内のあちらこちらのモノが、こどもたちの興味・関心を刺激し、見たモノが意欲につながっていく。「なんだろう」「どうして」と好奇心が生まれる。

その姿に、保育者がそっと寄り添い、こどもの興味・関心を見取り、「パクパクしてる」「おなかすいてるの」「ごはんかな」などのつぶやきを受け止める。一人ひとりのこどもの思いを受け止め、やがてこども同士が響きあっていく。



クラスに同じメダカを飼育し、経験を繰り返し、友だちと一緒に、さっきと一緒に増えていく。



こどもの「やってみたい」を引き出し、その思いが達成できるようにそっと支援し、安心感を広げる。その繰り返しが、こどもの世界を広げ、遊びがおもしろくなっていく。



自分でやりたいけどできるかな。先生と一緒になら安心だ。

ねがい

砂、水、泥の変化を感じ、
保育者や友だちと遊ぶことも

保育者と一緒に好きな遊びをしたり、友だちとかかわりながら遊んだりする。

砂、水（プール、水遊び）、泥などの感触を全身で味わい、十分に遊ぶ。

保育者に自分の思いを受け止めてもらい、安心して過ごす中で、友だちへの興味・関心が広がる。

お気に入りの物やお気に入りの場所を見つけ、安心して過ごそうとする。

簡単な指示が分かり、行動しようとする。

様々な生き物や草花などに興味をもち、見たり触れたりしようとする。

水・砂・泥など、様々な素材に触れたり、使ったりして楽しむ。

自分でしようとする気持ちを大切にし、ゆったりとかかかわるとともに、一人ひとりの遊びや興味を理解し、保育者が仲立ちし、友だちとかかわれるようにする。

生活や遊びの中で友だちの名前を呼んだり、話したり、やりたい気持ちを受け止め、保育者が代弁することで、周りの人に自分の言葉や思いが伝わる喜びを感じられるようにする。

あそび

いっしょに
いっぱい
あそぼう

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

テントウムシ
の赤ちゃん見
つけたんだよ

保育者の言葉がけ
にメダカのえさやりの
経験からテントウムシ
の赤ちゃんの世話をし
ようと気付いた姿

はっぱ



何食べる
のかな



はっぱを
探しに行こう

テントウムシの赤ちゃんに、
はっぱをあげたいと探しに行く気
持ちはあらわれている姿



保育者に水やりを認めてもら
い安心し、葉の生長に気付き「おっ
きいー」と言葉で伝える姿

お水を
あげたいの



保育者は、こどもの「虫の世話を
しているつもり」を受け止め、一緒に
毎日繰り返しかかわり、こどもの
気付いたことや思いついたことを実
現できるようにかかわっていく。こど
もたちの思ったことと、次の行動が、
見たものや触れたものなどをきっかけ
に変化し、新しい意欲が生まれてい
ることを読み取り、援助していく。こ
どもの「やりたい」を楽しみ、自然
物の育ちの気付きに共感していく。



お水の
ごはんだよ

水、いっぱい



水やりに満足し、今度は地面に水を撒くことに関心をもち、水たまりを作りはじめた。大好きな保育者と一緒に、何が始まるのか、ワクワクし、遊具を使い泥を集めて山を作ったりすることに夢中になっている姿



つながっているね

自然物にかかわったり、水や砂などの可塑性な素材を通して、偶然の変化に気づき、様々なイメージを表現し、遊びを楽しんでいる。その中で、コミュニケーション力が育ち、保育者と遊びを共有し、人とかわる非認知能力の育ちにつながっている。



砂、気持ちいいよ



保育者の遊びの仕掛けに、なんだろうと見守りながら、「あっ、そうか」と気づき、言葉で自分の気持ちを表現している姿



手が消えたよ



安心感と信頼感をもち、保育者と共に五感を使い、気持ちよさを味わっている。
次は何をしようかなとこどもの興味・関心を引き出していく。



あつた、先生の手

保育者とともに友だちとかかわることを心地よく感じ、手が隠れたり出たりすることに気づき、繰り返し試そうとする姿

すぽっ、すぽっでたよ



やってみよう



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境



園周辺と園舎



テラスから目の前に広がる畑では、こどもたちが育ちつつある野菜の変化を見つけている。年長児が世話をしている姿に、あこがれをもち、真似をしたくなる環境がある。

本物を通して、昼ごはんの食材に関心が寄せられるように、モノがこどもと保育者のやりとりを彩ってくれる。

四季を通して行う野菜栽培は、「〇〇って、こうやってできるんだ」という気付きを繰り返し、体験を学びに変化させていく活動と環境をこどもたちに与えてくれる。

園庭の環境



キッチンの中をのぞくと、色とりどりにお花紙が詰め込まれたカップが縦横隙間なく並んでいる。

カップの素材は、「カップケーキ」「アイスクリーム」「かき氷」などこどもの生活体験に支えられ、変化し、こどもたちにごっこの世界を与え、こどもの主体とかかわる。

そして、遊びの後にはモノをどうすればよいか、整然と並べることのできる箱が誘いかけてくれる。

遊びを楽しみ、思う存分友だちと遊んだコトを糧にして、未来に向かっていくこどもたち。

この経験が、卒園しても、大きくなって、懐かしさを感じ、園に訪れて、思わず遊んでしまいたくなるこどもの気持ちをかきたてる。

でも、遊具を使ってみると小さく感じ、大きくなった自分に気付く。その瞬間も、ヒトとモノのつながりを実感する大切な機会となる。

戻ってきたい時に訪れ、今の自分を改めて見つめることにつながり、懐かしいモノに触れたいと思える遊具が「わたし」を支えることがある。

モノ、コト、ヒトとつながり、「主体」を育む保育が続いていく。



こどもが何をしたいか、どう心が動こうとしているのか、保育者の試行錯誤が、ここにしかない手作りの遊具を生み出していく。



とことん遊びを楽しむことを願いつつ、手先の巧緻性の育ちを思い工夫するヒトがいる。

そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる

「先生、だいすき」、こどもの声が聞こえそうなくらい保育者に安心して体をまかせるように抱きついてくることがある。

いつもそばで見守り、こどもが不安を感じたら、そばに寄り添っている保育者を求めることのできる関係をつくってきた。一人ひとりのこどもの要求を受け止め愛情を注いでいく。



「むっくり♪
クマさん、
むっくり♪
クマさん」



保育者がクマ
さんになって、
「グー、グー」

保育者と一緒に
走る、手をつなぐ
安心感の距離は、
こどもそれぞれ。



「まて まて」保育
者に追いかけれ、
ドキドキ、ワクワク



園では保育者を心の基地に、思う存分走りまわったり、手をつないだり、こども自身が安心感をもち、遊びを楽しむことを大事にするようかかわってきた。

ねがい

いろいろなことをおもしろがって、
友だちと楽しむことも

生活の流れを意識し、身の回りのことをしようとする。
保育者や友だちと一緒に、走る、跳ぶ、渡る、くぐるなど、体を動かして遊ぶ。
身近な環境に関心を持ち、約束やルールを守り、かかわろうとする。

戸外で体を動かし、様々な遊具や用具で遊ぶことを楽しむ。

自分なりのイメージを持ち、友だちと一緒に遊び、簡単なやり取りを楽しむ。
友だちと様々な遊びを通して、自分の思いを伝えようとしたり、友だちの思いを感じたりする。

興味をもった遊びや好きな遊びを繰り返し楽しむ。
身近な物や遊具に興味を持ち、好きなように描いたり作ったりして遊ぶ。

一人ひとりのこどもの様々な活動に向けての思いに寄り添い、自分でできた満足感を味わえるようにする。また、クラスのみんなである遊びが楽しいと感じられるように、環境構成や雰囲気づくりを工夫する。

こどもの疑問や質問に対して丁寧に応じ、話すことや聞くことを楽しみ、喜んでやり取りしようと思えるようにする。

あそび

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

ペインティング
おもしろーい

みて、みて
これで遊ぶんだ

手にした絵の具遊びの道具を自慢げに見せ、絵の具で遊ぶ意欲にあふれている姿

ここに
塗ってみる



模造紙を広げ絵の具を使い、タンポ遊びを楽しめるように環境を整え、一人ひとりのこどもが、どんなふう遊び始めるか見守る。



よーし
ここに塗って
みよう

こんなふう
になったよ



偶然手についた絵の具をじっと見て、きょとんと考え込んだり、進んで手につけて、塗るところを選んだりし、不思議さや面白さを感じている姿

おもしろい



6

こどもたちが、友だちのしていることに気付き、真似してみる。

保育者と一緒におもしろいことを続けようとする生活を大事にしていく。

おもしろい
みて、みて

つながっているね

こどもたちの今を楽しむ、おもしろいと感じることができる遊びを保育者が一緒につくっていく。そして、こども同士のイメージが重なり、遊びをおもしろがる姿が、考えたり、工夫したり、やがて、協働的に探究する学びにつながっていく。



手で塗ろう

一緒にしよう



体を使って塗る、体に塗る、こどもたちは、絵の具をきっかけに、おもしろいことを見つけ、直観的に体の部位を巧みに使い分けている姿



8



絵の具が
でてきた



10



9

絞ったり、押さえたり、絵の具を塗るにはいろいろな方法があることに気付き、試している姿

こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境

園舎正面フロー



出典「ぞうくんのあめふりさんぽ」
なかのひろたか（福音館）



今大事にしていることが伝わるように、こどもが探究しようとしていることをテーマとして展示し、保護者をはじめ地域の来訪者にもそっと働きかけてくれる手作りのモノたち。

テーマの探求は、四日市市上下水道局員の人のつながりに発展。

機会を捉え、モノ、コト、ヒトと出会うことを大事にする。

園庭の環境



テーマを探求する子もいれば、違うコトへ興味が広がる子もいる。

選択できるモノがあることが、「今日は〇〇しよう」「どうしようかな」とこどもが主体を発揮する場面にかかわっている。

遊びの中に、テーマがある。こどもたちの興味・関心のある手作り遊具が、テーマについていろいろな角度から探求する機会をつくっている。



日差しを調整できるテントの下で、昨日の続きのシャボン玉遊びが始まる。テーブルには、石鹼水が入った皿とシャボン玉が作りやすい道具があり、こどもたちがやってくるのを待っているかのように並んでいる。



こどもは自分で作ったモノに自分を投影し、大事にする。

モノを大事にする環境が自分が大事にされていることを感じる。

作ったジュースをかけておく場所

園庭にあるヤマモモの木は、季節の経過とともに、こどもたちにたくさんのプレゼントをしている。赤いヤマモモの実が落ちると、待ちに待ったジュースづくりが始まる。四季を通して自然は、ていねいに時の流れと生長を教えてくれ、感動をつなげていく。



そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる

8

3歳児

● あおい幼稚園



水が減ってきた。どうやって、じょうろに水を入れよう？ そうだ、手のひらで水をかき集めよう。

室内に飾ってある環境に触れ、こどもたちは、自然に「『みず』ってなあに」と関心を寄せる。園庭に置いてある「じょうろ」「ベビーバス」「シャボン玉の道具」「石鹸」に、

「『みずだいすき』きもちいい」と、様々な遊びの姿が発揮される。

一人ひとりの声や表現に向きあい、こどもが作り出す世界を受け止めてきた。

ベビーバスに、浮かんだ小さな葉が泳いでいるようで、そっと捕まえた。



水やり後に、水が溜まっているのを見つけ、手で確かめてみたよ。



花の水やりでなく、園庭の溝を見つけたよ。ここに水を流すと、水はどこに行くのかな。

こどもの発見は実に不思議で、保育者の思わぬ姿が現れる。どこまで見守り、どこで声をかけるか、毎日の繰り返しの遊びの中で、気のあう子や興味・関心の同じ友だちを見つけ、遊びの広がりを感じる。こども一人ひとりの遊び心を大事にする環境や保育者のかかわりを考えてきた。

ねがい

身近な自然環境にかかわり、
友だちとやってみたいを試すことも

身の回りのことを自分でしようとし、できた満足感を味わう。
保育者や友だちと一緒に遊び、約束やルールを知る。
水・砂・土・泥などの感触を楽しんだり、開放感を味わったりする。

戸外で遊ぶことを喜び、保育者や友だちと一緒に走ったり、気に入った
遊具を使って遊んだりする。

保育者や友だちと同じことをしたり、そばで真似したりし、一緒に
遊ぶ楽しさを味わう。

面白かったことや自分のしてほしいこと、困っていることなどを
保育者に伝え、思いを受け止めてもらい安心する。

保育者や友だちと一緒に小動物の様子を見たり、草花を取ったり、
触ったりする。

砂や水など様々な素材を使って変化を楽しみ、イメージを膨らませ、
遊びを楽しむ。

こどもの興味・関心を引き出す環境を整え、意欲的に遊べるようにする。

保育者が仲立ちし、一人ひとりの思いに寄り添い、代弁したり、共感し
たりしながら、簡単なルールやきまりを知らせるようにし、友だちと遊ぶ
楽しさを味わえるようにする。

あそび

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

「ヤマモモほしいの」
ジュースできるかな

ギューって、
つぶしてごらん

手の動きを変えたり、保
育者の言葉を聞いたりし、
色が出るよう工夫する姿



一人ひとりが自分のイメージを
もち、友だちと一緒にやってみよ
うとしている姿

ヤマモモのジュースを作
りたい、自分でできるんだ
と自分を信じているこども
の誇りとやる気を受け止め、
どうすればジュースができ
るか一人ひとりの様子を見
ながら言葉をかけたり、何
度も拾いに行っているヤマ
モモの木の場合へ行ったり
し、やりたいを支えていく。

いちごが、
入っているの

全然、落ち
てこないの

風が吹いたら
落ちてくるよ

今までの豊かな体
験が、ヤマモモの実を
どうすれば集められる
か考え、自分なりの言
葉で伝え、知っている
ことや分かっているこ
とを話しあっている姿





水、
入れたよ

他の子と実を集めている保育者の「水を入れようか」との声かけに、しようと思っていたことへの自信をもち、安心して自分でやってみようとする姿

水、入れるの
難しいなあ

友だちの気持ちに気付き、二人でどうすれば水が入るか考え、工夫している姿



ほら、見て

身近な友だちに「自分のできた」を見てほしい姿



つながっているね

保育者や友だちとイメージを共有し、遊びを繰り返し経験したことを活かし、まわりの子の様子を気にかけて、共に達成できるようにやり遂げようとする力につながっていく。

保育者に見守ってもらうことで、安心してやりたいことに夢中になれる姿

友だちと一緒に、自分たちでできたという自信と保育者の手助けを受け、じっと見守られ、安心してやり遂げた達成感を味わえるよう、一人ひとりのちがいを受け止め、ていねいにかかわる。



これ、持つね



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境



部屋の中では、こどもたちが遊びのイメージを共有し、共同的に遊びが展開できる遊具が設定されている。

大型積み木は、整った形からこどものイメージを具体化しやすく、次々にかたちを変えていく。そして、遊びが続き、こどもの学びが重なっていく。

いつの間にか、違う場所で遊んでいた仲間ともつながる。モノとモノで構成し、遊びが展開していく。



園の全景

テラスでは、遊具を設定することで、こどもの試してみようかなという思いに寄り添い、遊びの発展と共に、かたちを変えていく。

「今度はこうしよう」「こんなことできるかな」こどもと共に、モノが動いていく。ヒトとモノ、お互いにかかわりながら変化していく。

園の構造を考え、こどもの遊びや活動をどうやって保障しようかと考える。

こどもの遊びの変わり目をとらえ、興味や関心がどこに向かっているのかをみつめ、環境を構成していく。



室内の環境



積み木を組み合わせながら、かたちが生まれ、誰ともなく、「〇〇ができてきた」とイメージし、工夫する遊具と空間が用意されている。おうち、店、舞台など様々なものになっていく。見たこと、聞いたこと、やったことをもとに「こうしよう」「ああしよう」と体験から遊びが広がり、置いてあったモノが遊びのストーリーの手助けをする。

空き箱、キャップ、紐、紙コップ、画用紙、テープ、ストロー、輪ゴム、ラップ、カラーペンなど素材や道具が一箇所にまとめておいてあるモノが、こどもの「作りたい」と共鳴する。

そこですべて完結するほどの素材と道具が準備された様々なモノから、

感じとり、表現し、作ることに没頭し始める。まるで、アトリエで製作に熱中してるようだ。

その子の思いが表出した作品にヒトがかかわり、発展させていく遊びがつながっていく。



こどもたちと会話し、こどもの生活背景や体験を支え、保育者が本物に近づける手助けをする。知っていることを実現しようとする遊びの追求は、モノとヒト、そして、コトと共にある。



そだち

あそびがつながる、やりたいがひろがる

9

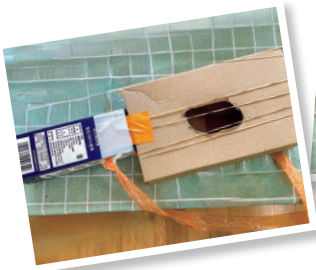
4
歳児

●
泊山幼稚園

こどもたちの目の前には、興味・関心を誘う様々な環境が用意されていた。そのモノたちをじっくり観察し、みつめ、考え、自分と向きあい、「できるかな?」「友だちはどうやってる?」とまわりの様子を見回したこどもたち。作りはじめた一人ひとりのモノに向きあう時間を保育者が共有してきた。

できあがったものをまわりと見比べる繊細な姿を受け止め、工夫したり、考えたりし、自分で導き出したアイデアに共感してきた。

材料をあれこれ探し、
工夫し、イメージした
楽器を作った。



「友だちと遊びたい」
「私も一緒のものがつくりたい」
「ここは、しっかりと、とめておこう」
と周りを意識し、どうすればよいかあれこれと考え、集中する。

こどもの声に耳を傾け、じっくりと聞いていると、こどもたちがいろいろなモノを不思議がり、なぜかなと考え、やってみたいと意欲にあふれていた。

5歳児の遊びに交じったり、体験したことを真剣に話したり、思いめぐらせたりしているこどもたちの願いを部屋の空間に広げるようにしてきた。

友だちと一緒にはじめようとする姿や、イメージ通りにいかなくても「どうしよう」と考え、他の方法があるのではないかと探り、「やりたい」が発揮できるよう、保育者が見守り、寄り添ってきた。

ねがい

考え、工夫し、友だちと一緒に
遊びを楽しみたいこども

保育者や友だちに親しみをもち、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
様々な素材に触れたり、使ったりして遊びを楽しむ。
身近な環境にかかわり、興味のあることを見つけ、関心を広げる。
自分の思いを出し、友だちとのかかわりを深める。

自分の思いや要求を言葉で保育者や友だちに伝えようとする。

一人ひとりの好きな遊びがつながるように、保育者が仲立ちし、思いを受け止めてもらい、自分の遊びの過程が認められる喜びや遊び込む面白さを味わう。

友だちと同じ空間の中で楽しい雰囲気を感じ、共通のイメージでつながりながら遊びに夢中になる。

様々な素材を使い、イメージし、工夫して作ったり、使ったりして遊ぶ。

こどもの発想を大事に受け止めながら、イメージが実現できるように素材、材料、空間などの環境を整える。

保育者と一緒にしたいということどもの気持ちや発想や考えを受け止めていくことで、友だちとの共感、協同的な遊びにつながっていくようにする。

あそび

「〇〇ショーが
はじまるよ」

積み木で舞台を
作り、友だちと揃い
で作ったヒーローの
グッズを身に着けて、
ショーごっこをしよう
と準備し、客の席を作
ろうと考える姿

すこやか

つながり

まなびの
めばえ



〇〇ライダー
のベルト！
できた！



楽しいことが始まり
そうだと友だちが集まり、
遊びのイメージを共有し、
期待して待つ姿や
ショーを楽しんでもらいた
いという意欲的な姿

こどもの願いやイ
メージしたものを作り
上げ、表現したい思い
を受け止め、実現でき
るように支援する。

音楽も用意
しなくちゃ！

ギターも
できたよ！





保育者も客になったり、楽器演奏に参加したり、一緒に楽しみ、あれをしよう、これをしよう、もっとやりたいという気持ちがこどもたちに広がる姿

準備できた？



次は、
〇〇ショー
にする？



友だちと同じ場で同じようなイメージを膨らませながら、なりきって動いたりすることが楽しめるよう、保育者も共に役割を担って遊びを楽しんでいく。
異年齢のクラスの子への言葉かけや一緒に遊びたいとこども自身が思いつくことを大事にしていく。

客にもっと来てもらおうと3歳児を呼びに行くことを思いつき、遊びを楽しもうとする姿



ショーが始まるから来てね



ショーがどのようなものか共通のイメージをもち、演じることを知っている姿

つながっているね
一緒に遊び生活する友だちのことを思いやり、楽しいことをやってみたい、そのためにはどんな工夫をすればいいかなと考える、思いついたことを表現し、受け止めてもらえる関係性が、非認知能力の育ちにつながっていく。

みてみて！
このダンスおもしろいよ

10

5歳児

海の星カトリック幼稚園

こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境



園舎前風景



自然物をどの様に取り入れていくのか、園舎や大型の遊具とともに、こどもに届けたいメッセージがある。木があると生き物が寄ってくる、影が生まれる。風を感じる。四季を通じた変化を五感を通じて受け取れる。小さな緑も自然、大きな山も自然。こどもがその自然のモノとコトとどうかかわるか、かかわっているかじっくり見つめるヒトのかかわりから、こどもの育みは無限である。



室内の環境



玄関のオブジェ



オープンスペースの絵本展示

部屋の中は、あちらこちらに遊びの経過を知らせるモノたちがある。

モノを通して、こどもの遊びの足音を聴き、こどもがモノに向きあっている姿を思い浮かべる。きっと、「ここは何回もやり直したのかな」「本物に近づけようと工夫したんだな」など。

一つの遊びはこども同士の中でモノやコトを通して共有化されつながりを持ち、協同的な遊びに発展していく可能性を秘めている。モノが言葉を補い、言葉を生み出し、発想を豊かにし、遊びが展開し、こどもの探究の育ちが開かれる。



こどものピザやホットドッグなど「作りたい」を手助けする展示



何を作ろうかなと考えを生み出すモノとなる。



作ったものや、作っている途中のものなどが丁寧に置かれており、こどもたちに安心を伝える環境となっている。

玄関口のオブジェやオープンスペースの絵本展示に触れた瞬間、四季の自然を思い、絵本から紡がれる様々な世界を尊重しているのを感じて。こどもたちをはじめ、保護者や地域の人たちへ伝えようとしているのが感じられる。

置いたヒトの思いがモノを通して、そっとささやくように、気付きを与える。

ねがい

友だちと共に考え、協力し、ひとつのことを
やり遂げ、遊びを楽しむことも

友だちと協力したり、工夫したりし、自分たちで遊びを進める楽しさを味わう。

共通の話題について、みんなで話したり、聞いたりし、考えを出しあう。

友だちと共通の目的をもち、思いを出したり分かりあったりし、遊びを進めることを楽しいと感じる。

自分の考えと相手の考えの違いに気付き、折りあいをつけながら協力して取り組む。

自分たちが楽しんでいる遊びを、年下の子どもたちにも知らせながら一緒に遊ぶ。

遊びや生活の中で文字や数字に興味をもち、必要に応じて取り入れ、生活や遊びを工夫し、楽しむ。

様々な素材を活用して試したり、自分がイメージした物を工夫して作ったりする楽しさを味わう。

こどもの発想を大事に受け止めながら、イメージが実現できるように素材、材料、空間などの環境を整える。

保育者と一緒にやりたいというこどもの気持ちや発想や考えを受け止めていくことで、友だちとの共感、協同的な遊びにつながっていく。

あそび

みせやさんが はじまります

本物に店屋を近づけようと、話しあいをもったり、考えを出しあったりすることを繰り返してきた。試行錯誤し、素材や用具を使い、品物を作ったり、店屋のレイアウトを考えている姿



ドーナツ
できたよ



ほんとだ

一人ひとりの考えや思いに、ちがいがあることを認め、知らせていくことで、自分らしさを発揮し、品物を作ったり、友だちに相談したりして、物事を進めようとすることを支援する。

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

今から、みんな
で話しあいたい
ことがある
んだけど...



こんなふう
になっている
のか

昨年の経験を通して、こどもたちの中に、店ごっここのイメージが高まり、「こうしていきたい」「こうなりたい」との意欲があふれ、熱中する姿や没頭する姿

ボンドは、
じっくり、
ゆっくり
使おう



ホールの外で、客として保護者が待っていることを知り、店が開店することを期待し、どのように準備すればよいか分り、自ら進んでしようとしている姿



おかあさん
いるかな

準備
できたよ



レジは
大丈夫かな



店屋が開店し、どの売り場でも一斉に呼び込みをはじめ、客に喜んで買い物をして欲しいと思い、どうすればいいか工夫している姿

ちょっと
緊張するね



保護者を招待した店屋ごっこでは、友だちと協力し、話しあったことやイメージしたことを達成し、満足感が味わえるよう一人ひとりの言葉のかけ方や、気付きを共有し、保育者も共に遊びを楽しむ。

いらっしやい
ませ



つながっているね

様々な素材（モノ）に対して、イメージをもち要求を高め、友だちと一緒に、これまでの経験をもとに、年下の子や保護者（ヒト）へのかかわりを求め、参画する主体として、協働的な学びへとつながっていく。



車が動き
ます



こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

園の環境

園舎の中に入ると大きな水槽が迎えてくれる。

こどもたちの心を癒してくれているのだろうか。生き物は、何も言わずこどもの見たまま、感じたまを受け取ってくれる仲間のように、ちゃんと決まった場所にいる。



中庭を囲むように部屋があることで、太陽の光と風がどの部屋にいても感じられる。

ヒトとかかわる間に流れる風とこぼれる日差しが、安心感や落ち着きを感じるモノとして存在する。



室内環境



オープンテラスから部屋を見ると、解放感を味わう。同時に部屋の壁に向かって、机や椅子を並べ、心地よく落ち着いた空間をつくり出している。様々なこどもの気持ちを受け止めるモノの在り方がある。

遊びの姿も、空間やモノの置き方で、違いがある。多くの子とにぎやかな雰囲気があふれたり、じっくり静かにモノに向きあったり、どちらも、こどもの学びのエネルギーは強く、響き渡る。

自己選択できる姿は、答えをもらうのではなく、モノを見て考え、自分の答えを導くことが可能となる環境の中で育まれている。



様々な遊具に、じっくり向きあい、イメージを広げ、十分な時間の中で作ることを楽しみ、遊びを残しておくことで、さらにつなげる。つづける。発展する。

そだち

年齢をこえて、あそびがつながる、ひろがる



一人ひとりのイメージを共有し、音楽に合わせて、体を動かすことを楽しんでいる。

3歳児・4歳児・5歳児が様々な場所で、自分のやりたい遊びを見つけ、年齢を超えて集まり、遊びを楽しんで過ごす。こどもが「やりたい」を見つけ、夢中になって遊ぶことで、こども同士のかかわりも、自然に、相手に応じて身につけていく。



こども同士で、興味・関心に応じ、おしゃべりが続く。遊びの続きが始まり、イメージを共有する。



時には、一人で静かに過ごすことも選んでいる。園の環境がこどもの安心につながる。



長い時間をかけ大事にしてきた、こども同士のかかわりや保育者のかかわりや環境が、「何しようか」「誰と遊ぼうか」「何を話そうか」とこどもたち一人ひとりの意欲を刺激し、やりたいことが始まる。保育者は、こどもの「やってみたい」がどのように発展するか、達成するかをそばで見守り、困ったときに手助けしていく。

ねがい

多様な友だちとのかかわりを通して、
やってみたいを実現しようとするこども

3歳児・4歳児・5歳児の異年齢の集団の中で、お互いの違いに気付き、かかわる中で、こども同士で協力したり工夫したりして、自分たちで遊びを進める楽しさを味わう。

年下の子を気遣い助けようとしたり、困っている様子に気付きかかわったりすることで、人を思いやることを知る。

年上の子の姿にあこがれをもち、「自分もこうなりたい」という意欲が育ち、あこがれの気持ちが生まれる。

自分たちが楽しんでいる遊びを、年下のこどもたちにも知らせながら一緒に遊ぶ。

遊びや生活の中で、言葉以外による気持ちの表現に気付き、身振りや手振りや視線などで伝えあおうとする。

遊びにおいて、リーダーシップを発揮したり、危険がないかイメージしたり、そのような姿を真似ながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。

思いに寄り添い、自分でできた満足感を味わえるようにする。

こどもの遊びに応じて、活発に遊べる環境を整え、遊具や用具の使い方や約束が理解できるよう、伝え方などを工夫する。

自分なりに目標をもったり、やってみようとしたりする姿がこどもの達成感や自信につながるようにする。

あそび

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

リレー
したい子
集まれ

こども同士で、チームに分かれ、走る順番を決め、リレーが始まる。こどもたちの様子を見守り、そっと「よーいドン」の合図をおくる。

5歳児が1番走者でスタートしている中に、4歳児も交じって、負けずに走りぬく姿

よーい
ドン



リレーはトラックの周辺を走り、チームで競走すると知っている姿

つながっているね

ルールのある遊びを通して、競いあい、チームで協力しあう。年上の子の姿を模倣したり、見習ったりする。

年下の子が困っていないかなど気にかけて言葉をかけたり、手を引いたりする。遊びに夢中になり、生まれる様々な感情を調整し、折りあいをつけることを経験し、非認知能力が育っている。

バトンの受け渡しは、5歳児が3歳児に丁寧にわかりながら教える。その姿を4歳児が見て、真似てかかっている姿



バトン
どうぞ



がんばれ
がんばれ



次は、
わたしから

次は、3歳児が1番走者として、スタートラインに立つことを5歳児に教えてもらい、スタートの準備をしている姿



走りたい気持ちがまわりの
子からのかかわりを受け止める
姿につながっている



保育者が見守る中、3歳児がトラックを1周して走ってくることができるかなとイメージし、3歳児を迎えに行きかかわる姿が育ってきている。

3歳児の友だちのやりたい気持ちを尊重したけど、大丈夫かなと思いやり、自然に助けに行こうと体が動き出す姿

5



6



7

ここまで、
おいで



8

こっちだよ



9

あと、
もう少し



10

つながっているね

「リレーをもっと楽しみたい」との要求に対して、一人ひとりのちがいを受け止め「できる」「できない」で判断せず、自然に手助けする姿が育まれている。

人とのつながりを深め、遊びこむことで、社会的情緒が生まれ、様々なことを探究する学びにつながっている。

12

園小接続

三重小学校区

こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

12

園小接続

三重小学校区

交流園校の外観



幼保連携型認定こども園
フジ保育園



愛育こども園



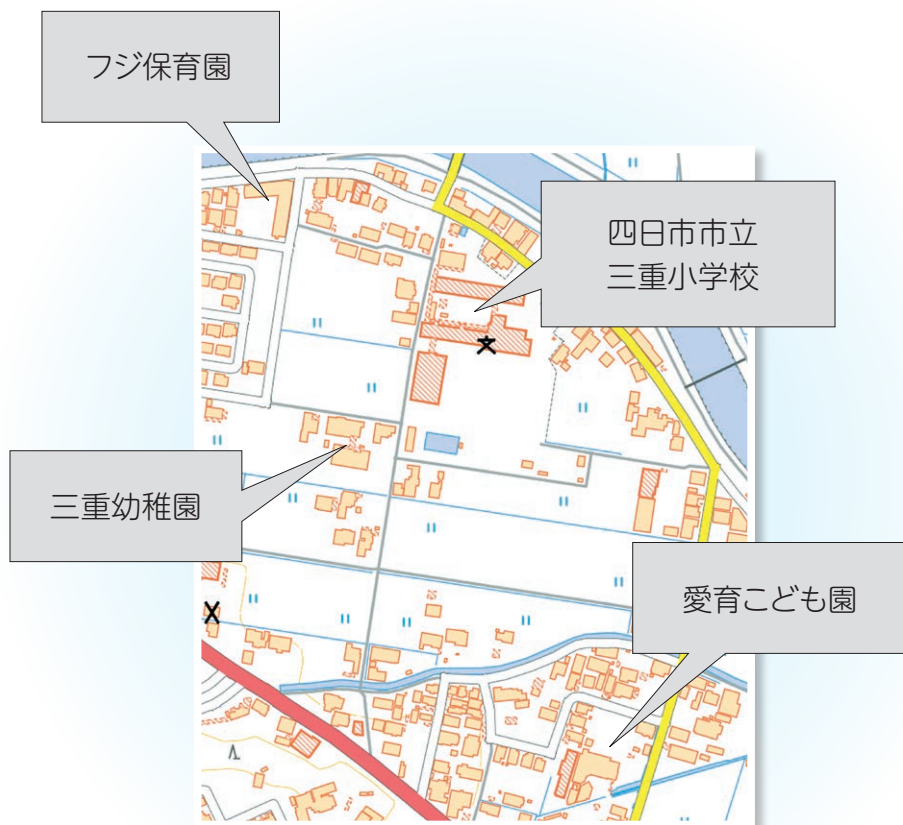
三重幼稚園



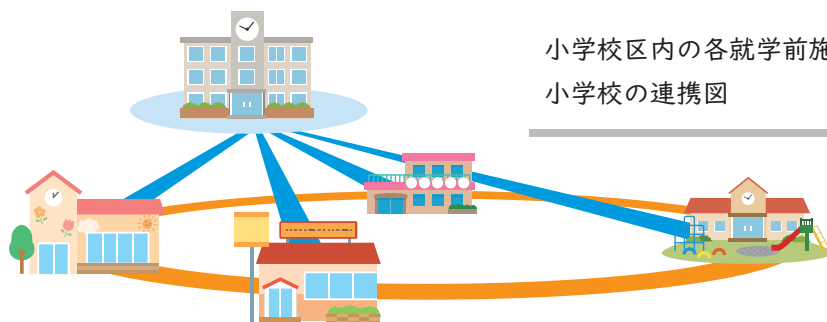
四日市市立三重小学校

三重小学校区

三重小学校区には、愛育こども園と幼保連携型認定こども園フジ保育園と三重幼稚園がある。就学前施設間のこども・職員の交流や三重小学校とのこども・職員との交流を実施。



出典：国土地理院



小学校区内の各就学前施設・
小学校の連携図

そだち

学びや生活の基盤をつくる

三重小学校の近辺に位置する「幼保連携型認定こども園フジ保育園」「三重幼稚園」「愛育こども園」は、「設置者・施設類型・学校種を超えた対話、共同、発信を行う」との「架け橋期プログラムの実施に向けての手引き」にあるように交流を始めている。

こども同士の交流を始めるために、どんな交流にしたいかを話しあうことが、職員間が知りあい、職員同士の交流にもつながっていった。

初めの一歩として、職員がそれぞれの施設を訪問することで、施設が大事にしている風土に触れることができた。ほんのわずかな時間の「ちょこっと交流」の積み重ねが、こどもたちの「学びをつなぐ」未来を支える。出会い、コミュニケーションが育ちをつないでいく。

活動名	参加者	目的
9月30日 10月9日	フジ保育園 園長 ひとみ 先生、21名 三重幼稚園 園長 ともみ 先生、14名 愛育こども園 園長 ともみ 先生、14名	同じ地区にある保育園、幼稚園の友だちと出会い、親しみを育つ。
10月13日(土) 9:30~11:30	三重幼稚園 園長、水島、榎子、松本、橋本 フジ保育園 園長、榎子、水島、松本、橋本	同じ地区にある保育園、幼稚園の友だちと出会い、親しみを育つ。
10月13日(土) 9:30~11:30	フジ保育園 園長、榎子、水島、松本、橋本 三重幼稚園 園長、ともみ 先生、14名 愛育こども園 園長、ともみ 先生、14名	同じ地区にある保育園、幼稚園の友だちと出会い、親しみを育つ。



2園交流計画会議



活動名	参加者	目的
9月30日 10月9日	フジ保育園 園長 ひとみ 先生、21名 三重幼稚園 園長 ともみ 先生、14名 愛育こども園 園長 ともみ 先生、14名	同じ地区にある保育園、幼稚園の友だちと出会い、親しみを育つ。
10月13日(土) 9:30~11:30	三重幼稚園 園長、水島、榎子、松本、橋本 フジ保育園 園長、榎子、水島、松本、橋本	同じ地区にある保育園、幼稚園の友だちと出会い、親しみを育つ。
10月13日(土) 9:30~11:30	フジ保育園 園長、榎子、水島、松本、橋本 三重幼稚園 園長、ともみ 先生、14名 愛育こども園 園長、ともみ 先生、14名	同じ地区にある保育園、幼稚園の友だちと出会い、親しみを育つ。

「幼保連携型認定こども園フジ保育園」と「三重幼稚園」の交流計画書

「愛育こども園」と「三重幼稚園」の交流計画書

ねがい

新しい友だちと一緒に、新しい環境で
たくさんのやってみたいを見つけることも

こどもが安心感と信頼感をもち、身近な環境にかかわり、自信をもって活動できるようにすることで、一人ひとりのこどもの発達を促す。さらに、充実感や満足感を十分に味わえるような環境を構成し、主体的な遊びを通しての「学び」の充実を図る。

また、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育むことを意識し、小学校との円滑な接続を図る。

こどもの主体的な活動である遊びを中心に、自ら体を動かす楽しさや心地よさを味わい、多様な体験ができる環境の充実を図る。

こどもの発達に即した「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように指導・援助の在り方を工夫し、時には直接体験を生かすよう情報機器を活用していく。

遊びを豊かにするための公開保育を実施し、こどもの実態に応じた教育課程の編成等の改善を図る。

「新教育プログラム」「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」等を基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた研修を推進するとともに、小学校との接続を図る。



あそび

ひさしぶり



つながっているね

こどもたちが交流活動を通して、体験した「会ったことがある」「遊んだことがある」「知っている」との安心感が小学校への生活につながっていく。

すこやか

つながり

まなびの
めばえ

2025・5・13

名前は…



1

春の初めての2園交流では、安心感のもと、こどもたちが、自分を知ってもらい、新しい友だちを知ることができるよう見守る。



2



3



新しい出会いに緊張しながらも喜びがあふれ、自信をもち名前を言ったり、相手の話すことを聞こうとする姿

たくさんあわができたよ

何か月たって、一度知りあった友だちに会えて、懐かしく、親しく感じ、遊びを楽しんでいる姿

自分たちの園とは違う様々なものに出会い、興奮し、どうやって遊ぶのか、考え、工夫し、ワクワクしている姿



4

今度の相手はきみだ

ゴーゴー
じゃんけん
列車



6

秋の2回目の交流では、集団での遊びを楽しみ、心と体がほぐれ、再会を喜びかわりがもてるようにした。

久しぶりだね



5

春の交流園での楽しい遊びを思い出し、 2025・10・1
遊びに来た保育者にそっと聞きに行く姿



置いてあるよ、
また遊びにおいて



これはね
こうやって
遊ぶんだ

自分の園の遊具の遊び方を初めて遊ぶ友だちに教えようとする姿

ねえ、ねえ、
前に遊んだ
あわはどう
なったの？



冬の三重小学校での3園交流では、2園ずつの交流から3園合同で小学校校庭で、同じ体験をし、安心感を蓄え、つながっていくよう各園での遊びを取り入れ、一緒に遊んだり、クイズをしたりし楽しい経験につながるようにした。

各園での交流を重ね「ひさしぶり」と言葉を交わす姿



おはようございます
三重小学校へようこそ

2025・11・17

小学校の校長先生の話聞き、小学校の環境を知ることができた姿



しっぽりはじめよ



園には
ないよね



つながっているね

あこがれている場所での交流は、こどもの心に刻まれ、小学校に入学する日へつながる経験となっていく。

12

園小接続

下野小学校区

こどもがであう
環境（モノ・コト・ヒト）

12

園小接続

下野小学校区

交流園校の外観



下野こども園



幼保連携型
よっかいち
ひばり認定こども園



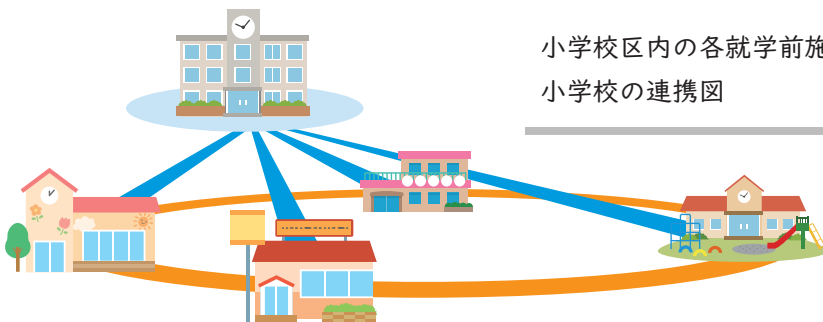
四日市市立下野小学校



下野保育園

下野小学校区

下野小学校区には、幼保連携型よっかいちひばり認定こども園、下野こども園、下野保育園がある。就学前施設間のこども・職員の交流や下野小学校とのこども・職員との交流を実施。



小学校区内の各就学前施設・
小学校の連携図

そだち

学びや生活の基盤をつくる

12

園小接続

下野小学校区



一日入学体験交流

『一緒に遊んで名前を知った、また、会おうね』

下野小学校に隣接する「下野こども園」西朝明中学校の近くの「幼保連携型よっかいちひばり認定こども園」あさけが丘団地にある「下野保育園」は、就学前の施設間の交流を経て、3園合同で下野小学校児童との交流を実施し、職員間、こども間の交流を重ねていこうとしている。

2025・2・14

下野小学校区内就学前施設5歳児と下野小学校1年生との交流活動の様子下野小学校にて。

どの子にも、架け橋期の小学校とのつながりを大事にしていこうと、こども同士の交流活動を行うために、施設長同士が連絡を取り、先に交流が行われていた活動を紹介し、就学前教育・保育施設5歳児と小学1年生が交流した。こどものために、何ができるか、何から始めるか、地域性を活かし、こどもの育ちにかかわる大人の一歩進める姿が、こどもの未来へつながっていく。



手作りプレゼントをどうぞ…。

ねがい

やってみたいがふくらみ、友だちと共に
新しいことに挑戦しようとするこども

こどもが安心感と信頼感をもち、身近な環境にかかわり、自信をもって活動できるようにすることで、一人ひとりのこどもの発達を促す。さらに、充実感や満足感を十分に味わえるような環境を構成し、主体的な遊びを通しての「学び」の充実を図る。

また、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を育むことを意識し、小学校との円滑な接続を図る。

こどもの主体的な活動である遊びを中心に、自ら体を動かす楽しさや心地よさを味わい、多様な体験ができる環境の充実を図る。

こどもの発達に即した「主体的・対話的で深い学び」が実現できるように指導・援助の在り方を工夫し、時には直接体験を生かすよう情報機器を活用していく。

遊びを豊かにするための公開保育を実施し、こどもの実態に応じた教育課程の編成等の改善を図る。

「新教育プログラム」「四日市市就学前教育・保育カリキュラム」等を基に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた研修を推進するとともに、小学校との接続を図る。



あそび

こんどは
あのこに、
いつあえるかな



つながっているね

グループで、こども同士
の交流を行うことで、より密に初
めての人との関係を築く土台を体
験し、安心感を持ち、小学校生活
につながっていく。

すこやか

つながり

まなびの
めばえ



グループで、自己紹介し、歌を歌い、親しみも
もち、初めての場所や保育者や友だちとかかわつた
り、自分がやってみたい活動に参加したりする姿



3園の職員間の交流 (2025・4・17 下野
こども園にて) 自己紹介・5歳児クラス情報交換・
交流計画を立案し、それぞれの園でこどもたち
が期待感を持ち、交流活動に参加できるように
していく。こどもの交流のためのプロセスが職
員間の交流となり、会うごとに大人もこどもも
親しみがわくことを大事にしている。



3園交流グループが分かる
メンバー表が保育室に貼って
あり、こどもたちが自園の生
活や遊びで知っていく姿



3園交流
グループ別に
座ってるんだ

こども同士の交流のために、様々な活動や行事を重ねていく中で、こどもも職員も持続可能な交流ができるように、今までの取り組みを見直し、計画していくようにしている。日々の教育・保育活動に、こどもが交流を意識できるような環境や楽しめる活動を計画し、こども自身が期待感をもち、交流していけるようにしている。

3園で一緒に歌う歌をクラスの友だちや保育者と歌うことで、音楽会への期待をもち、どんなふうに歌ったらいいかなと工夫する姿

音楽会の合唱曲歌ってみようか



3園交流計画表

2025年度 第1回 三園交流打合せ 事項書

開催日 11月15日(水)

開催場所 下野小学校 体育館

出席者 下野小学校(15名)、みらい幼稚園(15名)、ゆき組幼稚園(15名)、いせこ幼稚園(15名) 計75名

議題 1. 挨拶 2. 交流の様子 3. 今後の予定

1. 挨拶

2. 交流の様子

3. 今後の予定

2025年度 下野子ども園 (後半)

園名	下野幼稚園
男子	10
女子	5
計	15

園小中音楽集会計画表

園名	人数	楽器
下野幼稚園	15	トランペット、トロンボーン、サックス、ドラム、ピアノ、ギター、キーボード、パーカッション
下野子ども園	15	トランペット、トロンボーン、サックス、ドラム、ピアノ、ギター、キーボード、パーカッション
計	30	



小学校施設、様々な人とかかわり、あいさつや大人数の集団での行動の仕方や施設の使い方などを体験し、知っていく姿

つながっているね

3園で交流したり、共に楽しむできたりしたことを生かし、小学校の体育館で、合唱を聞いたり、歌ったりした。

交流が、してもらうものでなく、自らするという積極性をこどもに育み、自信につながっていく。

2025・11・10



ハイ♪ともだち♪



小学生になったらこうするんだ



入学式で待ってます

さようなら



◇ ご協力いただいた こども園・保育園・幼稚園・地域型保育事業所・
小学校・中学校

こども園 幼保連携型

たいすいノースこども園

幼保連携型認定こども園フジ保育園

三重こども園 下野こども園 愛育こども園

よっかいちひばり認定こども園

こども園 幼稚園型

泊山幼稚園

保育園

河原田保育園 ときわ保育園 西浦保育園

ことり保育園 下野保育園

幼稚園

海の星カトリック幼稚園 あおい幼稚園 三重幼稚園

地域型保育事業所

小規模保育所まちなかフジ保育園 かすみ園

小学校

四日市市立三重小学校 四日市市立下野小学校

中学校

四日市市立西朝明中学校

令和7年度 四日市市幼児教育・保育研究協議会

学識経験者

三重大学教授	富田 昌平(会長)
三重大学准教授	水津 幸恵
三重大学准教授	加納 岳拓

幼稚園・保育園・こども園・地域型保育施設 関係者

三重県私立幼稚園・認定こども園協会理事	
四日市私立幼稚園・認定こども園協会会長(あおい学園園長)	松永 高弘
四日市私立保育連盟会長(河原田保育園園長)	林 秀典
三重県保育協議会元会長(小規模保育所まちなかフジ保育園元園長)	藤谷 俊文
四日市市公立園長会会長(四日市市立桜こども園園長)	深川 麻奈美

教育委員会・行政関係者

四日市市教育委員会教育推進課参事兼課長	坂下 亮介
四日市市教育委員会教育推進課課付主幹	大熊 雅教
四日市市こども未来部保育幼稚園課副参事兼課長補佐兼指導係長 こども施設再編推進室 室付主幹	服部 由香
四日市市こども未来部保育幼稚園課副参事兼課長補佐 こども施設再編推進室 室付主幹	山内 祥代

架け橋期コーディネーター

四日市市立中央小学校元校長	長崎 雅子
---------------	-------

オブザーバー参加

四日市市立小学校校長会会長(四日市市立神前小学校校長)	三輪 真裕美
-----------------------------	--------

本冊子「四日市市就学前教育・保育カリキュラム実践版」を手にとっていただき、ありがとうございます。3年前の基本カリキュラム作成以来、私たちは就学前から中学校まで一貫した考えによる「四日市市新教育プログラム」を展開し、「生きる力」と「共に生きる力」の基礎を育て、「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」をめざし、「遊びがこどもたちの未来をつくる 安心感と信頼感をもち、身近な環境にかかわり、遊びの楽しさや心地よさを味わい育てる就学前教育・保育」を願い、昨年度の活用版を経て、ようやくこの実践版の発刊に至りました。

本年度は「幼保小の架け橋プログラム促進事業」の取り組みの始めの一歩として、公私立の枠を超えた施設間の連携、そして小学校との交流活動の機会を四日市市の全てのこどものために行っていく節目として、様々な関係者の皆様と手を携えていく貴重な年となりました。

編集にあたっては、四日市市幼児教育・保育研究協議会において、3年前より継続して当会の会長を担っていただいている三重大学教授富田昌平先生や三重大学准教授水津幸恵先生、本年度より新たに参画いただいた三重大学准教授加納岳拓先生から専門的な知見をいただきました。また、それぞれの所属機関を代表したメンバーの中に、四日市市立小学校校長会会長が今年度よりオブザーバーとして参画いただきました。また、架け橋期コーディネーターが加わりました。一人ひとりのこどもの育ちをつなぐ、就学前教育・保育をつなぐ、接続期における貴重な視点を含め、より多角的で深みのある検討を重ねることができました。

事例として掲載した各園・学校での活動には、こどもたちが環境に主体的にかかわり、自信をもって次のステップへ進もうとする生き生きとした姿があふれています。この冊子にある実践は、今まさにどの小学校区、就学前教育・保育施設でも、それぞれの良さを強みとし取り組みつつある事例の一部だと思います。ここに示された実践が、市内の各現場でさらなる創意工夫を生み、こどもたちの「学びの芽生え」を「小学校での学び」へと確実につないでいく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、多忙な業務の中で貴重な実践事例をご提供いただいた諸先生方、並びに多大なるご助言を賜りました委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

四日市市幼児教育・保育研究協議会事務局

本実践版の用語の扱いについて

「幼児」についての扱い

四日市市幼児教育センター条例より（令和5年4月2日施行）

（趣旨）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条の規定に基づき、四日市市幼児教育センターの設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第2条 本市は、幼児教育及び保育に携わる職員の資質の向上及び支援機能の充実を図ることにより、もって幼児等（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第4条第1項第1号に規定する乳児及び同項第2号に規定する幼児をいう。）の心身の健全な育成を図るため、四日市市東新町26番32号に四日市市幼児教育センター（以下「センター」という。）を設置する。

法令名 児童福祉法

法令番号 （昭和二十二年十二月十二日法律第百六十四号）

第四条 この法律で、児童とは、満十八歳に満たない者をいい、児童を左のように分ける。

- 一 乳児 満一歳に満たない者
- 二 幼児 満一歳から、小学校就学の始期に達するまでの者

本冊子における「幼児」は、0歳から就学前のこどもを総称します。

遊びがこどもたちの未来をつくる
紡ぎだすこどもの世界

四日市市就学前教育・保育カリキュラム実践版

2026年3月 発行

編集・発行 四日市市幼児教育センター



四日市市幼児教育センター

発行 四日市市こども未来部保育幼稚園課
四日市市幼児教育センター

〒510-0025

四日市市東新町 26-32 橋北交流会館 3階

TEL 059-333-6002